

カレント アウェアネス

Current Awareness

創刊300号・30周年記念特別号

目 次

「図書館・図書館情報学の情報誌」としての期待	/ 長尾 真…………… 2
『カレントアウェアネス』30年の歩み	/ 関西館図書館協力課…………… 3
小特集 カレントアウェアネス創刊300号・30周年に寄せて	
『カレントアウェアネス』の編集に係わって	/ 田村俊作…………… 5
『カレントアウェアネス』—「変わったこと」と「変わらないこと」	/ 野末俊比古…………… 7
『カレントアウェアネス』300号への道程	/ 北 克一…………… 8
[CA1688] 2009年アジア太平洋図書館・情報教育国際会議 (A-LIEP 2009) 開催報告	/ 根本 彰…………… 10
[CA1689] 経済低迷期と向かい合う米国公共図書館	/ 依田紀久…………… 11
動向レビュー	
[CA1690] 動向レビュー：デジタルリポジトリにおけるメタデータ交換の動向	/ 栗山正光…………… 15
『カレントアウェアネス』索引 (No.272～300)	…………… 19

No.300
2009.6.20

編集・発行／国立国会図書館 関西館 図書館協力課
〒619-0287 京都府相楽郡精華町精華台8-1-3 TEL:(0774)98-1448
季刊／3月・6月・9月・12月 各20日発行

- ・本誌は、メールマガジン「カレントアウェアネス-E」<<http://current.ndl.go.jp/cae>> と連携を図りながら、図書館及び図書館情報学における、国内外の近年の動向及びトピックスを解説する情報誌です。
- ・本誌の全文は、「カレントアウェアネス・ポータル」<<http://current.ndl.go.jp/ca>> でもご覧いただけます。
- ・本誌の掲載記事を長文にわたり抜すいして転載される場合には、事前に図書館協力課に連絡してください。

創刊 300 号・30 周年記念巻頭言

「図書館・図書館情報学の情報誌」としての期待

国立国会図書館長 長尾 真

『カレントアウェアネス』が創刊 300 号を迎えました。また、来る 8 月には創刊 30 周年を迎えます。本誌は現在関西館図書館協力課が編集・刊行を担当しておりますが、担当職員の努力を多といたしますとともに、外部の編集企画員としてお願いしてまいりました図書館情報学関係の研究者の方々のご協力に心からお礼申し上げます。

国立国会図書館は日本を代表する図書館として国際的に活躍するとともに、一方では国内の各種図書館、図書館研究者等に対して種々のサービスを提供し、支援を行いながら、相互協力によって日本の図書館活動が将来に向けてより良いものになっていくべく努力をしております。

『カレントアウェアネス』は図書館活動に関係する世界各国の各種のニュースを掲載するとともに、種々の課題について簡潔なまとめの報告を提供しております。それぞれの記事についてはその根拠となった詳細な資料リストを添えております。そういった意味で『カレントアウェアネス』は単に情報をお伝えするだけでなく、調査研究などのためにも役に立つ非常に高度な内容をもったものでもあります。

そういった努力をして来ましたが、本誌は国内外の図書館・図書館情報学の動向に関する情報誌として、図書館界で高く評価されていることは大変ありがたいことであります。また、図書館類縁機関、出版界、IT 関連業界、さらには一般の方々からも多くの注目をいただいております。

『カレントアウェアネス』は冊子体のもののほかに、「カレントアウェアネス・ポータル」としてインターネット経由で見ていただくものを出しております。そのなかには「カレントアウェアネス-R」や「カレントアウェアネス-E」などがあって、これらは本誌にくらべてもっとニュース性、速報性を主体とした内容となっております。このウェブサイトは最近では 20 万アクセス／月という頻度で利用されるようになって来ております。

本誌およびこのウェブサイトは当館の情報収集・調査研究の成果を社会に還元し、国内外の図書館や関連する学問分野等の発展に資するための活動として、今後ますます充実したものとしていきますので、どうかご愛顧くださいますようお願いいたします。

ご意見などもお寄せいただければ幸いです。どうかよろしくお願い申し上げます。

『カレントアウェアネス』30年の歩み

『カレントアウェアネス』は1979年8月、「図書館に関する最新情報の速報による提供」のための月刊の情報誌として創刊されました。創刊当初は、国立国会図書館（NDL）職員向けの（図書館情報学用語としての）カレントアウェアネスサービスを担うメディアとして位置づけられており、『カレントアウェアネス』の名称も、そこから取られました。ちなみにその最初の記事は、NDLの客員調査員として編集・企画にご助言をいただいていた牛島悦子氏による「学術審議会中間報告「今後における学術情報システムの在り方について」（昭和54年6月）」でした。

1989年6月、『カレントアウェアネス』の日本図書館協会による複製・NDL外部への頒布が開始されます。これを機に、『カレントアウェアネス』は掲載記事の質・量の拡充を行い、広く図書館界を意識した雑誌へと展開しました。2009年6月現在、ウェブサイト「カレントアウェアネス・ポータル」(<http://current.ndl.go.jp/>)で全文が公開されているのは、この1989年6月以後の記事です。

2002年6月、NDL関西館の開庁にあわせて、編集担当が関西館の図書館協力課に移りました。このとき、誌面をリニューアルしてNDL外部の執筆者を増やすとともに、刊行頻度を月刊から季刊に、判型をB5判からA4判に変更しました。記事の編集・企画についても、新たに「図書館情報学関係情報誌の編集企画員」としてNDL外部の図書館・図書館情報学関係の有識者複数名を委嘱し、編集企画員の支援・助言のもと、決定する体制としました。また同年10月には、新たにメールマガジン『カレントアウェアネス-E』が創刊されました。原則として月2回（年間では22回）刊行される『カレントアウェアネス-E』は、その名称が表すとおり、「Electronic」「E-mail」の形で、『カレントアウェアネス』と連携し、またそれを補完して、図書館に関する最新情報をより速く、より多くの方に提供するメディアと位置づけられています。さらに同年から、刊行後直ちに『カレントアウェアネス』『カレントアウェアネス-E』の全文を、NDLホームページでも公開するようになりました。

2006年3月、インターネットを通じた情報提供をより速く、より多く、またより効率的に行えるよう、新たなウェブサイト「カレントアウェアネス・ポータル」を試験的に開設しました。同年6月に正式に運用を開始したこの「カレントアウェアネス・ポータル」では、NDLホームページで提供していた『カレントアウェアネス』『カレントアウェアネス-E』の全文を引き続き提供するとともに、新たにブログ形式で最新のニュースを毎営業日に提供する「カレントアウェアネス-R」を開始しました。これは、「図書館に関する最新情報の速報による提供」を担うという意味で『カレントアウェアネス』の名を冠し、「Realtime（即座）」「Rich（豊か）」「Regularly（欠くことなく定期的）」に、また「RSS」の形で提供するという意味を込めて名付けられました。

「カレントアウェアネス・ポータル」の公開以後、編集担当では各コンテンツの特徴を以下のように色づけています。

雑誌『カレントアウェアネス』（CA）

季刊。動向の詳しい解説・レビューが中心。

メールマガジン『カレントアウェアネス-E』（CA-E）

月2回刊。注目トピックを少し詳しく紹介。

ブログ形式の「カレントアウェアネス-R」（CA-R）

ほぼ日刊。最新ニュースを情報源とともに速報。



これからも本誌『カレントアウェアネス』及び『カレントアウェアネス-E』『カレントアウェアネス-R』、そしてポータルサイト「カレントアウェアネス・ポータル」のいっそうの充実を図ってまいりますので、ご愛読いただきますよう、よろしくお願い申し上げます。

（関西館図書館協力課）

『カレントアウェアネス』 関連年表

年	月	『カレントアウェアネス』 関連	NDL関連
1979(昭和54)	6		総務部企画教養課内に図書館情報室を設置
	8	『カレントアウェアネス』(月刊)創刊 図書館情報室が編集を担当	
1984(昭和59)	4	参考書誌部一般参考課が編集を担当	
1986(昭和61)	6	図書館研究所が編集を担当	組織改正(図書館研究所の設置など)
	9		新館開館
1987(昭和62)	11	第100号を刊行	
1989(平成元)	6	日本図書館協会を通じNDL外への頒布を開始 (第118号～)	
1996(平成8)	4	第200号を刊行	
2000(平成12)	5		国際子ども図書館開館(第一期)
2002(平成14)	4	関西館事業部図書館協力課が編集を担当	組織改正(関西館設置など)
	5		国際子ども図書館全面開館
	6	『カレントアウェアネス』季刊化(第272号～) 判型をB5判からA4判に変更	
	10	メールマガジン『カレントアウェアネス-E』創刊	関西館開館
2006(平成18)	3	「カレントアウェアネス・ポータル」の試験公開開始 ブログ形式のニュース速報「カレントアウェアネス-R」開始	
	6	「カレントアウェアネス・ポータル」の本格運用開始	
2007(平成19)	4		関西館の部を廃止
2009(平成21)	6	第300号を刊行	

『カレントアウェアネス』 編集にご協力いただいた図書館情報学有識者の方々

■客員調査員・非常勤調査員等(敬称略、着任順)

○東京本館で編集を行っていた時期(～2002.3)

牛島 悦子 (元 白百合女子大学)

田村 俊作 (慶應義塾大学)

野末 俊比古 (青山学院大学)

○関西館で編集を開始して以後(2002.4～)

村上 泰子 (関西大学)

岩崎 れい (京都ノートルダム女子大学)

※渡邊 隆弘 (帝塚山学院大学)

■図書館情報学関係情報誌の編集企画員(敬称略、着任順)

堂前 幸子 (元 神戸文化短期大学)

※呑海 沙織 (筑波大学)

※野末 俊比古 (青山学院大学)

※森山 光良 (岡山県立図書館)

※北 克一 (大阪市立大学)

※松林 正己 (中部大学附属三浦記念図書館)

※佐藤 義則 (東北学院大学)

※渡邊 隆弘 (帝塚山学院大学)

※印は平成21年6月現在、当該の職を委嘱しているの方々。()内は平成21年6月時点のご所属。

小特集

カレントアウェアネス創刊 300 号・30 周年に寄せて

本誌の創刊 300 号・30 周年にあたり、これまで客員調査員、編集企画員などの肩書きのもと、『カレントアウェアネス』の企画・編集にご助力いただきました図書館情報学関係の研究者の方々のうち 3 名から、これまでの『カレントアウェアネス』を振り返る記事をご寄稿いただきました。

『カレントアウェアネス』の編集に係わって

『カレントアウェアネス』が 300 号、創刊 30 周年を迎えたとのこと、編集に多少とも係わった一人として、いささかの感慨がある。

『カレントアウェアネス』の創刊が 1979 年の 8 月、私が客員調査員として勤務したのが 1990 年の 6 月から 2002 年の 3 月までであるので、刊行期間全体の 3 分の 1 強に係わったことになる。以下思い出話を中心に書き綴ってみたい。個人的な思い出なので、記憶違いも多々あるかと思うが、ご容赦いただきたい。

私が係わっていた当時、『カレントアウェアネス』は月刊で、当時の図書館協力部にあった図書館研究所が編集・発行していた。事務局を担当したのは、研究所内の支部図書館課図書館情報係である。毎月 1 回、各部局から兼務で出てきていた編集委員と、図書館情報係、それに客員調査員で編集委員会を開き、取り上げる記事の企画、執筆者、担当編集委員などを決めていた。

掲載する記事は毎号 5～6 本、図書館に関連する内外の動向をなるべく広く目配りするように配慮していた。類似の記事を掲載するものに、『図書館雑誌』（日本図書館協会刊行）のニュース欄と、『情報管理』（科学技術振興機構刊行。当時は日本科学技術情報センター、次いで科学技術振興事業団の名で刊行）などの海外文献紹介欄があった。海外文献紹介欄はもととねらいが違うので、編集の際に特に意識することはなく、むしろ海外文献のチェックをする際参考にした。海外の記事はどうしても米英中心になってしまうため、なるべく世界各国・地域に関する話題も取り上げるようにした。また、トピックも政策、サービス、資料組織等と分散するように配慮した。

一方、『図書館雑誌』のニュース欄にはわが国の図書館界のニュースがいち早く掲載されるので、『カレントアウェアネス』としての独自性を出すことに苦勞し、結局あまりうまくいかなかった。どうしてもニュースが後追いになってしまうため、『カレントアウェアネス』では少しまとまった動向レビュー的な

記事にしようとしたのだが、そうすると今度は書くのが難しくなり、なかなか記事としてまとめられなかった。結果的に、記事の中心は海外の動向になった。国内記事であふれる今日のウェブサイト「カレントアウェアネス・ポータル」を見ると、隔世の感がある。

客員調査員として、『カレントアウェアネス』の編集に関連する私の主な任務は、内外の雑誌や新着図書をチェックして、記事になりそうなトピックを探すことと、事務局に寄せられた原稿を校閲することであった。前任者は牛島悦子先生だったが、牛島先生が退職されてから私が就任するまでに若干の空白期間があったため、直接業務の引継ぎを受けることはなかった。そのため、これといった明確な指摘はできないのだが、牛島先生の時代とでは誌面に違いがあるのではないかと考えている。

記事の材料探しは、主に図書館研究所が管理する図書館学資料室で行った。私が勤務する慶應義塾大学の三田メディアセンター（慶應義塾図書館）にも図書館・情報学資料室があり、内外の文献を豊富に揃えていたが、研究・教育に関連したものを収集するために、外国文献はどうしても英語中心になってしまう。それに対し、国立国会図書館（NDL）の図書館学資料室は世界各国・地域の文献を広く収集しており、さすがに全世界を相手にする国立図書館は違うと感心したことを覚えている。

とは言え、私の乏しい語学力では多様な言語で書かれた文献を読みこなせるはずもなく、トピックの発掘や執筆には、編集委員を中心に NDL 職員の方々に助けられることが多かった。特にアジア資料課や海外事情課などで海外文献をチェックしている方々から寄せられる情報はたいへんありがたく、また、NDL が単に資料を収集・提供するだけでなく、それを読みこなし、活用する力を備えた組織であることを実感した。かつて中井正一 NDL 初代副館長は NDL を中央气象台に例えて、毎日の新聞など、同館が収集する個々の資料は気圧報告に相当するもので、調査員がそれを整理することによって、気圧配置が明らかになり、気象の変化を知ることができる、NDL がわが国において果たす役割はそのようなもの

だ、と記した⁽¹⁾。図書館の動向という限られた領域ではあったが、NDLのそのような力を目の当たりにしたのは得難い経験だった。

執筆はNDLの若手職員を中心に依頼した。これは『カレントアウェアネス』の発行に若手職員の研修という役割も持たせていたからである。そのため、寄せられた原稿は内容・表現ともかなり丁寧にチェックし、修正した。内容面では、原文献はもとより、関連文献に当たって、裏付けをとるように心がけた。裏付けとなる文献を捜して書庫内を動き回ったが、NDLが所蔵する多様な資料に触れる良い機会となり、これも楽しい経験だった。

表現面では、固有名の表記に注意した。図書館関係では、用語辞典や雑誌に収録された用語解説のたぐいを集めて、常時参照できるようにしていた。また、海外の情報をいち早く伝えているという意識から、記事に出てくる新語に対して、記事番号の先頭に「T」をつけた用語解説を載せるようなことも行った。人名や地名はそれぞれの辞典を調べた。政府組織については『主要国行政機構ハンドブック 改訂版』（ジャパンタイムズ、1993）などを参照したが、英国などでは行政組織の変化が激しく、適切な名称を見つけるのに苦労した。

年に1回は特集を組んだ。一人の編集委員を中心に企画を立て、記事の構成や関連文献の収集を行った。特定の領域の動向を広く概観する機会となり、私自身にとっても学ぶところが多かった。

関西館の開館に伴う機構改革で図書館研究所がなくなり、図書館に係わる調査研究機能が資料と共に関西館に移ることになったときに一番心配したことのひとつが、『カレントアウェアネス』の存続だった。関西館での新体制を検討する中で、図書館研究所のサービスに対する関係者の意見聴取を行ったが、『カレントアウェアネス』については存続を希望する声が圧倒的に多かった。中でも、日本の図書館史・図書館事情が専門で、外国事情にはさほど興味をお持ちではないのではないかと考えていた某重鎮から、『カレントアウェアネス』がとても役立っていると言われたときは嬉しかった。それだけに、東京本館の職員の日常的な協力が期待できない中で、文献をチェックして記事の材料を探し、執筆を依頼する、といったことが果たしてできるものかどうか、心配でならなかった。速報を主体とするメールマガジンの『カレントアウェアネス-E』を発刊し、印刷体の『カレントアウェアネス』を季刊にする、という構想のねらいの一つも、執筆者を確保する負担を減らすための苦肉の策という一面があったように記憶する。

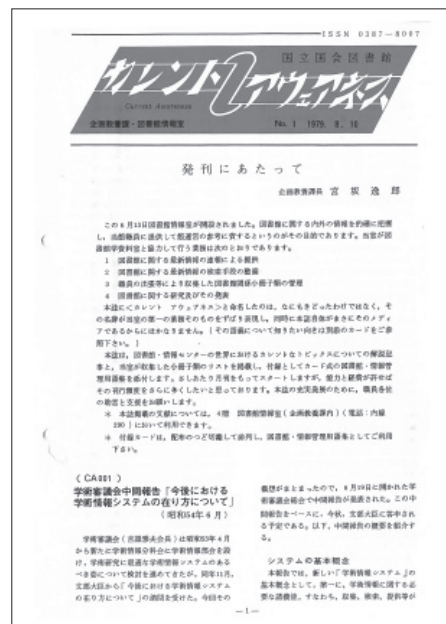
関西館が開館し、『カレントアウェアネス』が新発

足して以来、以上の懸念を吹き飛ばし、発展を遂げているのは誠に喜ばしい。私なども、原稿を書いたりするときには、「カレントアウェアネス・ポータル」で関連記事をチェックするように心がけているが、さまざまな動きを実にまめに記事として掲載しているので助かっている。最新動向に関する情報収集が、雑誌や新聞などの印刷物からインターネット中心へと変わってきていることにうまく対応したということなのだろうが、そうした変化をうまく捉まえ、ポータルサイトへと発展させた関係者の才覚と努力に敬意を表したい。

「カレントアウェアネス・ポータル」はいまや図書館をめぐる内外の動向を知る不可欠のツールになっている。今後共、動向の変化をうまくキャッチし続け、情報発信の方法に絶えず気を配りながら、一層の成長を期待したい。

たむらしんきく
(慶應義塾大学：田村俊作)

(1) 中井正一、論理とその実践、てんびん社、1972、p. 102-3.



過去の表紙デザイン①
(No.1 (1979.8) ~ No.100 (1987.12))

『カレントアウェアネス』ー 「変わったこと」と「変わらないこと」

『カレントアウェアネス』(CA)は、2002年3月までは国立国会図書館(NDL)東京本館において、2002年4月以降は同関西館において、編集が行われてきた。非常勤調査員および編集企画員として、東京・関西の両方で編集に関わってきた立場として、CAに対して思うところを述べてみたい。もっとも、編集の意図や様子などについては、その変遷を含めて、すでに本号他稿(特に田村先生、北先生による記事)において述べられているはずなので、私としては、東京時代の旧CAから、関西時代の新CAへの「変化」に対する雑感を、思うままに記させていただくことにする。以下の記述は、すべて私の個人的な経験と見解に基づくものである。

旧CAと新CAとは、大きく変化した。月刊の冊子である旧CAは、図書館や図書館情報学における最近の動向について、比較的小容量な分量の記事で紹介していた。これに対し、新CAは、季刊の冊子(ウェブでも公開されるが)となり、やや長期的なスパンで動向をとらえて(必ずしも速報性を第一義としないで)解説する記事が中心となっている。記事の分量も長めになった。図表を交えた説明もしばしばなされるようになり、視覚的なわかりやすさも増した。新CAのこうした方向性は、「動向レビュー」という記事区分が設けられたことからわかる。ちなみに、旧CAは、ページ数や刊行頻度の制約などから、こうした方向性を取ることはなかなか難しかった。

新CAでは、日本に関する事柄を積極的に扱うようになったことも大きな変化であろう。これは、日本における研究文献について、テーマごとにレビューする「研究文献レビュー」という記事区分に象徴されている。旧CAは、もっぱら「海外」を対象としていたが、これは、「国内」については類似他誌・記事に委ねていたことによるところが大きい。CAに対して、NDLによる情報誌ならではの、固有の意義を強く求めていたためであったと思う。

新CA(冊子)を補完するものとして、速報的なニュース記事を流すメールマガジンの『カレントアウェアネス-E』(CA-E)が刊行されるようになった。また、速報性をいっそう重視した『カレントアウェアネス-R』(CA-R)も開始された。これらを統合して提供しているウェブサイト「カレントアウェアネス・ポータル」(CAポータル)は現在、図書館関係者にとって重要な情報源になっている。冊子に留ま

らず、インターネットでの配信が取り入れられたことも、旧CAから大きく変わった点である。

CAの編集が東京から関西に移ることが決まったあと、旧CA編集の合間を縫って新CAの形式などについて検討が進められたが、検討のなかで、新CA(冊子)とCA-E(メールマガジン)との「棲み分け」についてかなり議論した記憶がある。旧CAの編集過程においては、CAに掲載される記事の「候補」となる情報(雑誌記事など)がたくさん集められていた。そうした情報のほとんどは、編集会議の結果、「記事」にならずに、担当者の手許に置かれたまま(あるいは廃棄されていたのかもしれないが)、陽の目を見ることはなかった。CA-E(およびCA-R)の記事は、いわば、そうした「CAの記事予備軍」を掲載しているものといえるかもしれない。そうした情報を流すことによって、「読者から新たな情報が寄せられる(あわよくば、読者のなかからCAの記事の執筆者を見つけられる)」という期待も、CA-Eを始めることにした動機のひとつであったと記憶している。

少々「思い出話」が過ぎたかもしれない。旧CAから新CA(CAポータル)へと、CAは確かに大きく変わってきた。しかし、私自身は、本質的なところは、何も変わっていないと受け止めている。

CAの根本的な役割は、「国内」の図書館関係者に対し、有用な最近(願わくば最新)の情報を提供することにある。そうした役割は、唯一の「国立」図書館として、わが国の「図書館(界)」を支えていくというNDLの存立意義から生じるものであろう。CAは、いわば、NDLがNDLたる証のひとつであるといえる。

旧CAの記事が「海外」の情報に限られていたのは、読者である「国内」の図書館関係者にとって、それが「役立つ」と考えられていたからであるといえよう。月刊・冊子という頻度・形態も、当時の読者には便利であったと思われる。しかし、予算・人員削減などが進められる一方で、「インターネット時代」を迎え、学習支援・課題解決支援などといった「新しい(ように見える)」役割も求められるなど、わが国の図書館を取り巻く状況が大きく変化している現在、「国内」の動向についても、さらに迅速かつ正確に、そして効率的に把握・理解する必要が生じるようになった。そうしたなかで、国内の情報も取り扱うことにし、新たな記事区分を設けるとともに、普及したインターネット環境を活用して、速報性と解説性のバランスを少しずつ変えた、CA、CA-E、CA-Rという三つの媒体を展開していくことは、読者のニーズに対応するための「変化」であるといえよう。「変化」の過程でCAの本質的な意義は失われることはなく、む

しろ、意義をより強化していくために「進化」を遂げてきたのである。

今さら言うまでもないことであったかもしれないが、30周年・300号を迎えるにあたり、CAの「原点」を確認しておきたかった次第である。CAに掲載するには忍びない駄文であることは率直にお詫びするが、(ほとんどお役に立っていないとはいえ)編集に関わってきた立場として、CAに込めている「思い」を伝えることにはいくらかの意味はあると考えている。

実は、編集に携わるなかで見聞きした「裏話」を書こうとも思ったが、それはまた別の機会にしたい。最後に、創刊から現在まで、CAの成長を支えてきたNDL職員をはじめとする関係者の方々（特に編集担当の事務局職員と記事執筆者の方々）のご努力に心から敬意を表して、むすびとしたい。

(青山学院大学：野末俊比古^{のずえとしひこ})

『カレントアウェアネス』 300号への道程

本記事を執筆するにあたって、机上に開いたファイルに少しセピア色を帯びた『カレントアウェアネス』No.272（2002.6.20）がある。冒頭の巻頭言に次の記事が掲載されている。初代図書館協力課長として関西館事業部に着任された児玉史子氏の執筆である。少し長文になるが、当時の息吹を伝える内容であり、引用したい。

本年4月、国際子ども図書館の全面開館、関西館の開庁のため、当館では大幅な組織改編を行いました。それに伴い業務の再編を行い、本誌の編集業務は新たに設置した関西館事業部図書館協力課が担当することになりました。ここに新編集体制による『カレントアウェアネス』272号をお届けします。

これより解説機能に重点をおいた冊子体（季刊）とメールマガジンである『カレントアウェアネス-E』の2形態での発行は今に続いている。私自身の『カレントアウェアネス』への編集企画員としてのかわりもこのときからである。

ちなみに発足間もない関西館事業部図書館協力課（現：関西館図書館協力課）の2大特命事項（？）は、総合目録ネットワーク（通称「ゆにかねっと」）事業の推進と『カレントアウェアネス』を核とした図書館研究関係事業の円滑な継続・発展であった、と仄聞した記憶がある。

新生『カレントアウェアネス』は、その早い時期から、一般記事、小特集、動向レビュー、研究文献レビューの区分で構成され、これは現在も継承されている。

『カレントアウェアネス-E』は、その後『カレントアウェアネス・ポータル』(Current Awareness Portal: 図書館に関する情報ポータル)⁽¹⁾ というポータル・サイトへと発展的に展開し、現在では、各記事への年間トータル・アクセス件数がページビュー・カウントで約210万件／年間を超える、日本語の図書館情報学関係の情報提供サイトとしては日本有数のサービスに成長している。提供メニューは、「カレントアウェアネス-R」(CA-R: 図書館に関するニュースブログ)、「カレントアウェアネス-E」(CA-E: 図書館及び図書館情報学に関する最新記事のメールマガジンのウェブ版)、「カレントアウェアネス」(CA: 「カレントアウェアネス」冊子体版のウェブ版)、「図書館調査研究レポート」(図書館や図書館運営に関し



過去の表紙デザイン②
(No.101 (1987.1) ~ No.117 (1989.5))

てNDLが実施した調査研究成果レポートのウェブ版)、「図書館研究シリーズ」(NDLが実施した図書館に関するシンポジウム等の内容や研究成果をまとめた報告書のウェブ版)、「(図書館情報学関係)雑誌新刊目次」がある。

一方、この足掛け7年間の間に図書館を取り巻く社会情勢や情報環境は大きく変化し、携帯電話やスマート端末を始めとするモバイル・コンピューティングの普及、インターネットのコモディティ化と広帯域化、ネットワーク情報資源の爆発的増大、SNS (Social Networking Service) や CGM (Consumer Generated Media) のネット社会での地盤確保、Ajax (Asynchronous JavaScript + XML) に代表される Web 2.0 の潮流、ビジネス社会での HaaS (Hardware as a Service)、PaaS (Platform as a Service)、SaaS (Software as a Service) の定着と進行など激しい変化が続いている。足元の『カレントアウェアネス・ポータル』も、そのような潮流のひとつであるオープンソース・ソフトウェア・システム (OSS) で構築されている。また、「カレントアウェアネス-R」はブログ機能を導入し、RSS 配信にも対応している。近い将来には、クラウド・コンピューティング体制への移行も個人的には夢している。

一方、社会情勢の変化を受けて、NPM (New Public Management) の思考や行政手法が、図書館の機能と役割の見直しを迫っている。これらの急速な変化は進行中であり、今後のさらなる加速を感じさせられる。

しかし、激変する情報環境、知識情報社会の進展の中にあって、図書館という存在の根源的意味はなにか。

その公共性の意味を問う時に、不安定な時代にあつてこそ、世界の他の図書館や図書館コンソーシアムは何を考えているのか、どのような実証実験プロジェクトが進行しているのか、図書館界の新しい標準化の志向動向は如何などなど、関心／心配事の種は尽きない。海図のない世界への旅立ちは、危機と機会の両面を持つヤヌスである。隠者を決め込んでも、果敢／無謀な挑戦を行っても、いずれにせよ時代は進む。本質的な図書館の役割と存在について、時には動揺し、時には高揚した頭／胸で思い悩む多くの図書館関係者にとって、『カレントアウェアネス』一族は、小誌『カレントアウェアネス』を中心として、小規模ながらあたかも羅針盤のような役割を一定限は果たしてきたといえるのではあるまいか。

また、新生『カレントアウェアネス』以降に掲載されている「文献レビュー」は、取り上げられた各

主題を新しく研究される後学の方々にとって、対象分野の近年動向の予備知識や必読文献への手がかりを提供している。

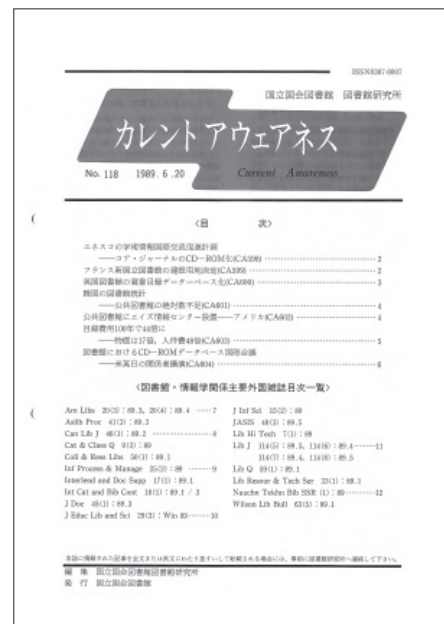
今回の『カレントアウェアネス』300号を一道程として、ますますの『カレントアウェアネス』一族の豊かな情報発信を期待したい。

なお、日々の膨大な情報の中から適切な記事候補を整理し、時の話題を取り上げ、原稿依頼や編集等の優れた裏方の任に当たってこられた歴代の関西館(事業部)図書館協力課、取り分け調査情報係の方々への感謝を併せてこの機会をお借りして申し上げておきたい。個別のお名前は省かせていただくが、彼／彼女らの営為なくしては、現在の『カレントアウェアネス』一族はなかったであろう。

最後に個人的な思い出として、『カレントアウェアネス』の全記事中で、「図書館ねこデューイ」(E574参照)が最も印象に残ることを告白しておきたい。後に刊行された単行書(E881参照)もお勧めである。

(大阪市立大学：北 克一)

- (1) 国立国会図書館・カレントアウェアネス・ポータル・<http://current.ndl.go.jp>。(参照 2009-02-27)。



過去の表紙デザイン③

(No.118 (1989.6) ~ No.271 (2002.3))

※以後、現在の表紙デザインとなる。(2002.4 ~)

CA1688

2009 年アジア太平洋図書館・情報教育 国際会議 (A-LIEP 2009) 開催報告

2009 年 3 月 6 日から 8 日まで、筑波大学を会場としてアジア太平洋図書館・情報教育国際会議 (Asia-Pacific Conference on Library & Information Education and Practice: A-LIEP) が開催された。この会議の主催者の一員として関わったことから、開催の経緯と準備状況、会議の成果について報告したい。

会議は、筑波大学大学院図書館情報メディア研究科、筑波大学知的コミュニティ基盤研究センター、日本図書館情報学会の 3 者が共同主催者となり、情報知識学会など 3 つの学会の協賛と文部科学省など 4 つの公的機関の後援、28 の企業等のスポンサーの財政支援を受けて開催された。開催にあたっては、筑波大学大学院図書館情報メディア研究科のスタッフが中心となって準備を行った。

日本の図書館情報学関係でこれだけの規模の国際会議が開催されるのは久しぶりである。1986 年の国際図書館連盟 (IFLA) 東京大会は、もう記憶している人も少なくなった。日本の図書館あるいは図書館情報学は、この IFLA 東京大会前後の数年がピークであったが、1990 年代以降、バブル経済崩壊に伴う公的資金の減少と情報環境の大きな変化への対応の遅れがあって、ずっと沈滞していたというのが個人的な見方である。その意味で、2006 年に京都で開催されたアジア電子図書館国際会議 (ICADL; E587 参照) などとならんで、日本が国際的に情報発信する体制がようやく作れるようになってきたものである。

A-LIEP は 2006 年に最初の会議がシンガポール、2007 年に第 2 回が台北で開催され、今回のつくばでの開催が第 3 回にあたる。この一連の会議が開催されることになったきっかけが、日本での LIPER (CA1599, CA1621 参照) の研究活動にあったというのは今回初めて伺ったことで驚いた。LIPER は 2003 年から 2006 年にかけて、「情報専門職の養成に向けた図書館情報学教育の再構築に関する総合的研究」として実施された共同研究 (代表者: 上田修一・慶應義塾大学教授) の略称である。その研究の過程で、アジア地域の図書館情報学教育の現状を把握するために、シンガポール、タイ、台湾、中国、韓国などから専門家を呼んで話を伺った。それがきっかけとなって、アジア太平洋地域の図書館情報学教育の協力体制をどのように作るかをテーマとした一連の国際会議が開催されるに至っているという。これは LIPER 関係者としてもうれしいことである。

さて、準備の過程では原油価格の高騰による航空運賃の高騰や米国サブプライムローン破綻による金融危機などの大きな経済問題があって、参加への影響が心配されたが、結果的にはアジア太平洋地域だけでなく、北米、欧州、アフリカを含めて 30 か国から参加があった。全参加者は 186 名で、このうち国外からの参加は 66 名であった。昨今の経済情勢を反映してか、南アジアあるいは中近東の諸国からの参加者が多いことが目についた。

プログラムは、招待講演としてピッツバーグ大学情報学部のロナルド・ラーセン (Ronald Larsen) 学部長と国立国会図書館の長尾真館長の講演があり、公募し査読の結果採用された研究発表 66 件 (うち口頭発表 47 件、ポスター発表 19 件)、パネルディスカッション 1 件、シンポジウム 1 件が実施された。研究発表のテーマとしては図書館情報学教育に関するもの、図書館情報学分野の研究、そして図書館情報学における実践についての報告がほぼ 3 分の 1 ずつを占めた。あまり日本では知られていない国々における図書館員養成や図書館の実践についての報告があり興味深かった。

パネルディスカッションはラーセン氏の基調講演とも結びついたもので、インフォメーション・スクール (略称 i-schools) を扱ったものであった。米国で伝統あるライブラリー・スクールの閉鎖が報じられたのは 1980 年代から 90 年代にかけてであった。これは大きな政府から小さな政府への移行によって、公共部門の図書館員市場が相対的に小さくなったことに基づく。残された学校は情報技術に基づく知識マネジメントに力を入れ、民間部門でも通用する要員の育成に力を入れてきた。インフォメーション・スクールへの移行はそれを端的に示している。また、シンガポールを筆頭に、アジアの諸国でもそうした市場志向の情報学教育に対応しようとしているところがある。

長尾館長の講演は、情報工学者であって国立図書館の館長を務める氏の電子出版と電子図書館に関する独自の考え方が参加者の関心を引いた。多くの質問があり、氏はていねいに答えていた。

最終日のシンポジウムでは筆者も含めて論者が自由に意見を述べた。イェール大学図書館副館長のダヌータ・ニテキ (Danuta Nitecki) 氏は、図書館マネジメントにおける調査研究の重要性について述べ、シンガポール・ナンヤン工科大学のクリス・クー・スー・ガン (Christopher Khoo Soo Guan) 氏は、グローバルな知識コミュニティの形成に対応するような知識プロセス管理の専門職育成の必要を述べた。また、欧州デンマークから参加したレイフ・カイバ

ルグ (Leif Kajberg) 氏は比較図書館学的な視点から、欧州の図書館情報学教育が国際化の状況の中にあると相互の課題を持ち寄って議論し、連携すべきことを述べた。韓国・延世大学のムン・スンビン (Moon Sung-Been) 氏は、同大学文献情報学部の現状と課題について報告した。筆者は日本の図書館情報学教育が世界の潮流から孤立しているように見えるが、専門職教育を確立すべきことと、他方で情報専門職のレリバンス (養成教育と職との関連性) そのものが問われていること、という二つの相矛盾する世界的な課題を担っていることを述べた。

この会議は、日本のようにテクノロジーで世界をリードする国の図書館情報学教育がどのようなものなのか知りたいという出席者の期待に、一定程度答えることができたのではないかと考える。また、予想を上回る数の日本の若い研究者が積極的に研究発表を行った点は将来を考えると大きな収穫であったし、また準備に当たった筑波大学のスタッフ・学生・大学院生にとっても、国際会議を経験したことは大きな財産となったものと思われる。

これまで、図書館関係の国際的な対応については、日本図書館協会、国立国会図書館、国立情報学研究所などが個別にあたってきたが、A-LIEP2009の準備をきっかけとして日本図書館情報学会にも国際委員会 (委員長: 三輪眞木子・放送大学教授) がつくられ、対外的な窓口として機能し始めている。ようやく見え始めた図書館情報学における国際的課題を議論する場となることを期待したい。

(東京大学: 根本 彰)

- Ref.
A-LIEP 2009: Asia-Pacific Conference on Library & Information Education and Practice.
<http://a-liep.kc.tsukuba.ac.jp/index.html>, (accessed 2009-04-10).
A-LIEP 2009: Asia-Pacific Conference on Library & Information Education and Practice. Tsukuba, 2009-03-06/08. Graduate School of Library, Information and Media Studies, University of Tsukuba et al, 2009.
<http://a-liep.kc.tsukuba.ac.jp/proceedings/index.htm>, (accessed 2009-04-10).
JSLIS: Japan Society of Library and Information Science.
http://www.soc.nii.ac.jp/jslis/aboutjslis_6_en.html, (accessed 2009-04-10).

CA1689

経済低迷期と向かい合う米国公共図書館

増加する利用

カウンターに立つ図書館員たちは、経済低迷期になると利用が増えることを知っている。ベテランは過去の経験として、新人は知識として。

過去いくたびもの経済低迷期に経験された利用増加の現象⁽¹⁾は、現在の図書館にも起こっている。それも、一部の地域に限らない。ニューヨーク、ボストン、シカゴ、シアトル、ロサンゼルスといった大都市圏の大図書館ばかりではなく、イリノイ州の小さな機械工業の町で、ネブラスカ州の酪農地帯の群落で、フロリダ州の沿岸地域の静かな観光町で、利用増加が報告されている。

もちろん、ごく当たり前の日常の積み重ねの中で積み重ねられた増加であり、内側にいる人間だからこそわかる程度の変化なのだろう。しかし、検索すると、この1年ほどの間の増加を伝えるプレスリリースやニュース記事が、何百となくヒットする⁽²⁾。そしてそれらが伝える数値は、確かに報告に値するものである。貸出数が前年比20%以上増えた、利用カードの登録が10%以上増えた、そんな数値が並んでいる。2008年9月に公表されたHarris Interactive社の調査によれば、米国人のうち図書館利用カード保有者は68%で、その76%が過去1年間に図書館を訪問している (E842 参照)。2006年の米国図書館協会 (ALA) の同種の調査と比べると、カード保有者の比率は5%、図書館訪問者の比率も10%、高い値を示している。

2009年の現在までを俯瞰することのできる全国的な統計数値はまだ公表されていないが、増加を伝える200件、300件の記事を眺め見ると、利用増加を裏付ける値が出るのは間違いなさそうである。

何が市民を惹きつけているのか

経済低迷という図書館を取り巻く環境変化の中で、この利用増加を牽引しているのは何であろうか? 本だろうか? 本だとすればどのような本だろうか? それとも他の資料群やサービスだろうか?

ニュースやレポートを丹念に読んでいくと、記者や図書館員は、必ずしも本が利用増加の呼び水であると捉えていないことがわかる。むしろ、彼らが強調しているのは本の貸出以外の点であり、近年、米国の公共図書館が、急激に変化する市民の情報ニーズに応えるべく改善をはかってきた新しいサービス領域である⁽³⁾。

まず強調されているのは、インターネット接続の提供が挙げられる。

現在米国で「高速」インターネットとうたわれ盛んに宣伝されているサービスは、6～7Mbps 程度であるが、このレベルの速度でも高額である。そのため、高速インターネットは節約の対象となりがちである。

そこで、子どもたちは宿題の情報を集めに高速インターネット環境のある図書館に来る。彼らはインターネット上の宿題支援サイトを利用したり、オンラインのチャットレファレンスを利用したり、友達とソーシャルネットワーク（SNS）で情報を共有したりしながら宿題をする。また大学を卒業したものの目標の職に就けていない 20 代の若者は、ポータルサイトで求人情報を集め、履歴書などの書類をオンラインで企業へ送付し、面接の約束を取り付けていく。今までコンピュータと関わらずに生活してきた人たちにとっては、就職活動のオンライン化は大きな壁である。それでも図書館員のサポートを受けながら、少しずつ慣れて作業を進めていく。

これらのサービスの基盤となるコンピュータ端末は、毎朝開館とともに席が埋まる。都市圏の大・中規模図書館では 200 台、300 台の端末があるがそれでも足りていない。100 年前のカーネギー寄贈の建物をそのまま使う公共図書館でも、その静かな館内の一角はコンピュータ端末コーナーに置きかえられている。実に 73% の図書館が、その地域で唯一、無料でインターネットを使える場所となっている（E839 参照）。政府情報や、政府補助金のもと行われた科学技術研究の成果の中にはオンラインでのみアクセス可能なものも少なくない現状、図書館がインターネットへのアクセスポイントを提供することは必然であるが、その実際の用途は拡大の一途をたどっており、インターネットサービスはもはや、提供しなければ批判を浴びる図書館の基本サービスとなっている。

次いで強調されているのは、DVD、そしてゲームソフトの充実である。逼迫した家計において、節約の刃に最初に切り落とされるのは娯楽費である。それでも、失業の不安を抱え、ローンに不安を抱え、治安の乱れに不安を抱える時代だからこそ、家族と楽しく過ごす時間を作りたいと願うのが人だろう。そこで、彼らは娯楽施設や高価な芸術観賞を諦めて、あるいは Amazon.com⁽⁴⁾ のワンクリックショッピングや Netflix⁽⁵⁾（ビデオ・DVD のオンラインレンタルサービス）の利用を諦めて、代わりに図書館で DVD やゲームソフトを借りる。図書館では、最新作はなかなか手に入らないものの、IMDb（映画情報データベースサイト）⁽⁶⁾ の人気トップ 250 に入

るような人気作品は概ねそろっている。Nintendo や Microsoft などのゲームソフトも、人気のため少し待たされるが期待以上のコレクションが提供されている。Amazon.com や Netflix のように、自宅まで郵送はしてくれないが、図書館へ向かうドライブの時間は家族で過ごす貴重な時間でもある。

インターネットや DVD、ゲームソフトの充実は、近年、米国の公共図書館が大いに力を入れてきたサービスである。そして、これらが図書館に多くの人を引き寄せている。

インターネットや DVD の利用のために図書館通いを開始した利用者が、図書館が情報の宝庫であることを思い出し、また家族を幸せにする娯楽施設であることを思い出し、その他のサービスにまで目を向けるには、それほど時間はかからない。

子ども向けのおはなし会や音楽会、作家の講演会やサイン会、舞台芸術などのパフォーマンスといった図書館のプログラムへの参加者も増加しており、時に倍増の報告もある。特に IT スキルを持つ図書館員やサポートスタッフによるコンピュータ講座は人気である。履歴書の書き方、Microsoft Word や Excel の使い方、補助金の検索方法など、コンスタントに人が集まる。

利用が増加しているのは、図書館内で提供されているサービスだけではない。米国の公共図書館は、自宅等からオンラインで利用できるコンテンツも充実させている。広大な米国では、図書館に行くには車がいるが、車に乗るにはガソリンがいる。ガソリン価格が瞬く間に急騰した 2008 年のこと、高度なコンテンツを遠隔地の人に提供することは家計の節約を助ける。このような理由を盾にしながら、図書館はオンラインデータベースベンダーに対しリモートアクセスの重要性を説き、契約に際してはそれに対応するデータベースを優先した。限られた予算で最大限のサービスをすることは、厳しい経済下における図書館の必然的行動であり、彼らの交渉は力をもった。結果として図書館のウェブサイトへのアクセスは飛躍的に増大し（E842 参照）、利用者は電子書籍やオーディオブック、音楽をダウンロードし、パソコンや、携帯情報端末（PDA）、読書用端末、携帯用音楽プレイヤー“iPod”などの携帯端末で楽しむことができるようになった。もちろん、無駄なガソリン代を費やすことなく。

図書館が、この数年で蓄積してきたサービスの向上を踏まえ、それらが市民の節約手段になる PR する姿はとても印象的であり、また時宜にかなっている

ように思える。図書館の努力の成果が、この経済低迷期にまさに花開いたようにさえ思える。

図書館の力強さはどこからくるのか

米国の公共図書館には、内部から興る積極的な気運がある。それは、低迷期を静かに過ごし財政に余裕が生まれ再び振興の追い風が吹くのを待つ姿勢とは異なる。実際、メディアを通じて見えるアクティブなPR活動は、力強い。

この積極的な姿勢は、なにかに由来するものなのだろうか？米国の公共図書館員という職能集団の1つの特性なのだろうか？

図書館の社会問題解決への強い姿勢が歴史に立脚していること、また図書館業界としてのまとまりが強くぶれないこと、の2点に由来するのではないかと考えられる。

図書館の社会問題に対する対応の歴史については、ハリス (Michael Harris) が1976年に著した“Portrait in Paradox: commitment and ambivalence in American Libraries, 1876 -1976”の中で興味深い論考を示している。ハリスは、図書館の発展史を、社会不安をエンジンとするサイクルの連続としてみることができるとしている。サイクルは社会の特定の脅威の特定から始まり、それをきっかけとして、その解決手段としての図書館が確立される。図書館は新しい使命を自らの存在理由の中心に据え、目標を達成するための新しい政策を掲げ、熱烈に行動する。不幸にも図書館コミュニティが社会に影響しきれぬときには、図書館員は「印刷された言葉の管理人」としての役割に再び注力する。世界恐慌(1929年)以降の歴史においては、このようなサイクルが多く観察されるのだという⁽⁷⁾。

社会が困難に直面するたびに著しい成長を経験する様は、たしかに、ハリスの論考以降にも観察される。

実際に、「テロとの戦い」を理由として吹き荒れたプライバシー侵害になりかねない法案及び法に対する行動、子どもの安全を守ることを理由にした表現の自由を侵害しかねない法案に対する取り組み、情報へのアクセスの不平等をもたらしかねない著作権に対する動きなど、近年の米国図書館界が使命感をもって反対してきた政治的動きを見ると、ハリスの説は1976年以降の時代にも通じるものがある。そして幸いにも、これらの行動は大きな成果を挙げている。

そして2008年から続く経済低迷期でも、米国図書館界は熱烈に行動している。8年ぶりに政権を取った民主党オバマ政権の最初の100日は、まさに経済健

全化への格闘であったが、その格闘においても、図書館は持てる資源を最大限に活用して、図書館が役に立つ存在であることをPRし、またそれを実証する活動を続け、図書館への資金提供を訴えている。

このような社会への対応は、個々の図書館・図書館員から沸き起こっているものであると同時に、ALAのような全米レベルの組織の活動が強く影響している。

それぞれの図書館は、それぞれの現実に即し様々な改善を試みている。住民が入れ替わり、利用者も変化している。1館の利用増加に関係する要因は多様である。このため全国レベルの傾向は、個々の図書館で活躍する図書館員にはなかなか把握できない。

しかし、全国レベルで事例を集約していくと、大きな要因が明確に浮かび上がってくるものである。そこでALAが、業界レベルの情報共有をはかり、個々の図書館はその情報に裏づけを得ながらより説得力のある広報活動をする。この広報活動が全体の傾向を明らかにする。

ALAはもちろん、個別の図書館の広報活動をもサポートする。ALAの作る「厳しい経済状況下における広報ツールキット」⁽⁸⁾はその1つの動きである。このツールキットには、ニュースメディアに対して話をするポイント、証拠を集め主張の正しさを証明していく手順、利用者その他一般市民との関係構築の仕方、メディアへの接触、政府や議会との協働、効果的な抗議集会の開き方などがまとめられており、さらに他の情報源や論拠となる研究資料などのリストもついている。

この成果は、NBC、CNN、CBSなどの全国レベルのTVネットワークを通じて映像として紹介されており、さらにその映像はインターネットでも繰り返し見ることができる⁽⁹⁾⁽¹⁰⁾。「厳しい経済状況下における広報ツールキット」のトップページに貼り付けられているNBCのビデオも、その1つである⁽⁸⁾。もちろん、ラジオや新聞など他のメディアでも頻繁に紹介されており、それらはALAの「図書館と経済」のページにまとめられている⁽¹¹⁾。

こうして、業界として一定のまとまりをもった、効果的な広報活動が行えているのである。

厳しいのは事実だが

経済低迷期の米国の図書館が直面している現実は、もちろん、厳しい。

自治体の財政危機により、フィラデルフィアをはじめとする全米各地で図書館分館の閉鎖、サービス時間の縮小、職員の削減が行われようとしてい

るというニュースは、図書館界に強い危機感をもたらしている。また図書館システムの市場動向分析家であるブリーディング (Marshall Breeding) 氏は、Infotoday 誌の 2009 年 3 月号において、多くの図書館で統合図書館システムのシステム更新が先送りされたり縮小されたりしていることを明かしている⁽¹²⁾。また民間からの資金調達も非常に厳しくなっているとの声も聞かれ、限られた資本の投下先をより厳選せざるを得ない図書館経営陣の苦悩も見え隠れしている。

幸いにも、積極的な PR が功を奏してか、経済低迷期における図書館サービスの存在感は多くの人に体感され、フィラデルフィアのように閉鎖というような極端な選択を免れたケースも多い。一部の図書館は、自らの可能性を拡大させている。その様子には、なにかとても元気づけられる。

今後、2008 ～ 2009 年の状況を分析するレポートが多く出されるものと予想されるが、そこに示される知見には注意を払っていく価値があるだろう。

(調査及び立法考査局国会レファレンス課：^{よだのりひさ}依田紀久)

- (1) Library Research Center, University of Illinois at Urbana Champaign. "Public Library Use and Economic Hard Times: Analysis of Recent Data". American Library Association. 2002.
<http://www.ala.org/ala/aboutala/offices/ors/reports/economic/hardtimes/technicalreport.pdf>, (accessed 2009-05-07).
- (2) 主要な記事へのリンクは以下のサイトで確認できる。
"Use of Public Libraries In Hard Economic Times". Nova Scotia Provincial Library.
<http://www.library.ns.ca/node/1340>, (accessed 2009-05-07).
- (3) "The State of America's Libraries Report 2009". American Library Association.
<http://www.ala.org/ala/newspresscenter/mediapresscenter/presskits/2009stateofamericaslibraries/2009statehome.cfm>, (accessed 2009-05-07).
- (4) Amazon.com.
<http://www.amazon.com/>, (accessed 2009-05-07).
- (5) Netflix.
<http://www.netflix.com/>, (accessed 2009-05-07).
- (6) The Internet Movie Database.
<http://www.imdb.com/>, (accessed 2009-05-07).
- (7) Harris, M. Portrait in paradox: commitment and ambivalence in American librarianship, 1876-1976. Libri. 1976, 26 (4), p. 284.
- (8) "Advocation in a Tough Economy Toolkit". American Library Association.
<http://www.ala.org/ala/issuesadvocacy/advocacy/advocacyuniversity/toolkit/index.cfm>, (accessed 2009-05-07).
- (9) Sidersky, Robyn. "Hard economic times a boon for libraries". CNN.com. 2009-02-28.
<http://www.cnn.com/2009/US/02/28/recession/libraries/index.html>, (accessed 2009-05-07).
- (10) "CBS Nightly News: Libraries are becoming the 'hot spot for just about everyone'". American Library Association. 2009-02-10.
<http://www.ala.org/ala/newspresscenter/news/pressreleases2009/february2009/piocbs.cfm>, (accessed 2009-05-07).
- (11) "Libraries and the Economy". American Library Association.
<http://www.ala.org/ala/newspresscenter/media/presscenter/presskits/librariesintougheconomictimes/>

economy.cfm, (accessed 2009-05-07).

- (12) Marshall, Breeding. Library Automation in a Difficult Economy. Infotoday. 2009.3.
<http://www.infotoday.com/cilmag/mar09/Breeding.shtml>, (accessed 2009-05-07).

CA1690

動向レビュー

デジタルリポジトリにおける メタデータ交換の動向

1. はじめに

近年、大学図書館を中心に、デジタル化された学術論文や研究資料を蓄積・保存し、インターネットで公開を行う、いわゆるデジタルリポジトリの構築が盛んである。こうしたリポジトリは、収録コンテンツを自機関の成果物に限定するものを機関リポジトリ、特定主題分野に収集対象を定めるものをサブジェクトリポジトリなどと呼びならわしている。制度的にもシステムのにもいまだ発展途上の段階にあり、より安全でより便利なものにするための工夫が続けられている。

リポジトリが機能を高めるための方法の一つとして、保持するコンテンツ（データ）に関するさまざまな情報を記録したデータ、すなわちメタデータを有効活用することが考えられる。リポジトリにおけるメタデータは、一般に、従来の書誌情報に相当する記述メタデータと管理的な情報を記録する管理メタデータとに大別され、前者は情報資源の発見、後者はデジタル資料の管理・保全、さらには長期保存などの目的に利用することが想定されている。これらのメタデータはリポジトリ間で交換・共有されてこそ意味があり、そのための規定作りや標準化が盛んに行われている。

本稿では、そうしたメタデータ交換の動向を、OAI-OREとPREMIS／METSという二つの活動を中心に探っていきたい。

2. OAI-PMH から OAI-ORE へ

2000年代の初頭から現在に至るまで、いくつものリポジトリ用ソフトウェアが開発され、改訂を重ねてきた。現在、多くのリポジトリが採用している代表的なソフトウェアとして、DSpace⁽¹⁾、EPrints⁽²⁾、Fedora⁽³⁾などがある。

これらのソフトウェアに共通している基本的な機能として、OAI-PMH対応がある。OAI-PMHは各リポジトリが蓄積しているメタデータを共有するためのプロトコルである（CA1513参照）。欧米では早い時期からOAI-PMHにより収集したメタデータを利用した検索サービスが立ち上がっており、ミシガン大学が運営するOAIster⁽⁴⁾はその代表例として有名である。

日本の大学図書館が運営するリポジトリも多くはDSpaceやEPrintsを採用しており、それ以外の

ソフトウェアもOAI-PMH準拠をうたっているのだが、日本でOAI-PMHを利用したメタデータ提供が本格的に行われるようになったのは比較的最近である。国立情報学研究所（NII）が「junii2」⁽⁵⁾というメタデータ・フォーマットおよび学術機関リポジトリデータベース収集方針⁽⁶⁾を定め、国内の機関リポジトリで生成されるメタデータをOAI-PMHで収集し、統合的に検索できる学術機関リポジトリポータル（JAIRO）⁽⁷⁾を公開している。このJAIROは2008年10月に試験公開され、2009年4月に正式公開された。また、国立国会図書館（NDL）のデジタルアーカイブポータル（PORTA）の外部提供インターフェースにOAI-PMHが追加されたのは2008年12月である（CA1677参照）。なお、NIIはJAIROとあわせて、収集したメタデータを利用して、参加機関の統計分析情報を提供するIRDBコンテンツ分析システムも構築している⁽⁸⁾。

一方、OAI-PMHを策定したオープンアーカイブズイニシアティブ（OAI）では、2008年10月、オープンアーカイブのオブジェクトの再利用・交換に関するプロトコル“Open Archives Initiative - Object Reuse and Exchange（OAI-ORE）”の正式版⁽⁹⁾を発表した。これはウェブ上の情報資源の集合体の記述および交換の標準を定めたものである。

現在、ウェブ上では多くの情報資源がひとまとまりで利用されるものの、その構成要素や境界が曖昧なため、コンピュータで処理できないという問題がある。たとえば物理学等の学術論文のプレプリントサーバ“arXiv”における論文詳細表示画面では、論文タイトル、著者名、版、抄録、本文へのリンク、同じコレクションの別の論文へのリンクなどが表示されており、このページのURI（Uniform Resource Identifier）が論文を示す識別子としてよく使われる。しかし、この画面の諸要素は人間の目には一目瞭然だが、コンピュータがarXiv専用の特別な処理をすることなしに識別することは困難である。

OAI-OREはこうした問題を解決するために、情報資源の集合体をコンピュータが解釈できる形で記述するリソースマップというものを規定し、これをもとにコンピュータがデータ交換を行う⁽¹⁰⁾。

つまり、OAI-OREではメタデータのみならずリポジトリ内の個々の情報資源（コンテンツ）そのものを（必要に応じてメタデータと共に）柔軟にやり取りできるようになるわけで、アルファ版、ベータ版の段階から関係者の注目が集まった。日本においてもOAI-OREに対する関心は高く、たとえばNDLはカレントアウェアネス-Rで逐一その動向を伝えているし、NIIはアルファ0.2版と正式版（1.0版）の仕

様書およびユーザガイドを翻訳公開している⁽¹¹⁾。

3. OAI-ORE の活用

OAI-ORE は正式版の発表があつて間もないため、リポジトリの現場で活用されるのはこれからだが、試験的プロジェクトはいくつか実施されている。ここでは英国情報システム合同委員会 (JISC) が助成する二つのプロジェクトを取り上げる。

カレントアウェアネス-R でも紹介されているが、FORESITE (Functional Object Re-use and Exchange: Supporting Information Topology Experiments) は OAI-ORE を利用して、学術雑誌のバックナンバーデータベース JSTOR に収録されている雑誌のデータをリソースマップ化し、SWORD (Simple Web-service Offering Repository Deposit) インターフェースを介して、Atom 出版プロトコル (Atom Publishing Protocol)⁽¹²⁾ に準拠した文書として DSpace に取り込むというものである。この SWORD も JISC の助成を受けたプロジェクトで開発されたプロトコルで、Atom 出版プロトコルの上に、リポジトリへの標準的なコンテンツ納入方式を規定したものである⁽¹³⁾。これによりコンテンツを複数のリポジトリに同時に納入したり、リポジトリ間でコンテンツをやり取りしたりするといったことが可能になる。OAI-ORE ではリソースマップの記述方法の一つとして Atom が利用可能であるため、FORESITE のように両者を組み合わせて使う応用例が今後出てくると思われる。

PRESERV2 プロジェクトは、デジタル資料の長期保存という観点から OAI-ORE の活用を目指している。ラムジー (Sally Rumsey) とオスティーン (Ben O' Steen) は、OAI-ORE の利点として、差分アップデートができること、すべてのメタデータおよびデジタル・オブジェクト間の関係や履歴も含めて情報の喪失がない複製が可能なこと、リソースマップが機械可読であるためコンピュータが定められた方針に従って最適の保存手続きを確定してくれることなどをあげている。これらにより、あるリポジトリのコンテンツを別のリポジトリに容易にコピーができるため、数多くの複製を持って安全性を高めることができるとしている⁽¹⁴⁾。このプロジェクトでは、OAI-ORE 活用の具体例として、EPrints と Fedora という二つの異なったソフトウェアで構築されたリポジトリ間でデータを交換する仕組みを作り、2008 年 4 月、英国サウサンプトンで開催された「オープン・リポジトリ (Open Repositories) 2008」会議でデモを行った⁽¹⁵⁾。

このように、OAI-PMH がもたら資源発見のため

のメタデータ共有の仕組みであつたのに対し、OAI-ORE はリポジトリにおけるデジタル資料の長期保存体制作りにも活用できると期待されている。

4. PREMIS 2.0

デジタル資料の長期保存に資するメタデータに関しては 2000 年代初頭からさまざまな研究が行われてきた (CA1489、CA1561 参照) が、現在、それらの頂点に立つのが PREMIS (Preservation Metadata: Implementation Strategies) の『保存メタデータのためのデータ辞書』第 2.0 版 (通称 PREMIS2.0)⁽¹⁶⁾ であろう。これは保存活動に必要と思われるさまざまな情報を整理・体系化し、その意味範囲や用法を規定した、まさにメタデータ要素の辞書なのだが、具体的な実現方法とは独立したものにするため、あえて要素 (element) とは言わず、意味単位 (semantic unit) という言葉を使っている。

このデータ辞書の第 1 版は 2005 年に発表され、英国のデジタル保存賞、米国アーキビスト協会保存出版賞を受賞するなど高い評価を受けた。日本にも 2007 年の時点での保存メタデータの到達点として紹介がなされている⁽¹⁷⁾。

第 1 版の発表後、PREMIS 作業グループは解散し、このデータ辞書の維持活動の場は米国議会図書館 (LC) に移り、改訂のための編集委員会が設置された。同時に、実際に運用されているリポジトリへの適用の検討も始まった。たとえば上述の PRESERV2 プロジェクトの前身である PRESERV では、PREMIS のメタデータを機関リポジトリのシステム (EPrints) にマッピングする研究を行っている⁽¹⁸⁾。

2007 年、PREMIS 編集委員会は十分なフィードバックが得られたとして改訂作業に入り、2008 年 4 月、現在の第 2.0 版が発表された。改訂の経緯および主な改訂内容については、ラヴォワ (Brian F. Lavoie) の記事に詳しい⁽¹⁹⁾。

5. PREMIS と METS

PREMIS が規定するのはメタデータの意味単位であり、実際にそれを記録するための方式は別に定めることになるが、PREMIS ではデータ辞書に沿った XML スキーマを作成して公開している⁽²⁰⁾。一方、XML ベースでメタデータを記録し、交換するための標準に METS (Metadata Encoding & Transmission Standard; CA1489、CA1552 参照) があり、PREMIS 同様、LC が維持管理を行っている。当然、PREMIS の XML スキーマで記録したメタデータを METS に入れ込もうという動きが出てくるわけだが、現実にはすんなり行かないことが明らかになってきている。

一つはセクションの分け方の違いで、PREMIS がエンティティのタイプ（オブジェクト、イベント、エージェント）で分けているのに対し、METS はメタデータのタイプ（記述、技術、来歴、構造など）で分けているため、PREMIS の各要素を METS の該当するセクションに振り分けるマッピングを行わなくてはならない。もう一つは、両方に定義されているため重複する要素があるということで、これはそのまま重複して記録するのか（その際には修正があった場合、齟齬がないよう両方ともきちんと修正しなくてはならない）、それともどちらか一方の側に記録するのかを決めなくてはならない⁽²¹⁾。

PREMIS を METS で利用する代表的な事例として、オーストラリア METS プロファイル（Australian METS Profile）がある。これは 2007 年、LC に登録されたもので、前年の PRESTA（PREMIS Requirements Statement）プロジェクトを受けて完成されたものである⁽²²⁾。また、イリノイ大学を中心とした ECHO DEPOSITORY プロジェクトでも、やはり PREMIS や、記述用メタデータ MODS（Metadata Object Description Schema ; CA1552 参照）を拡張スキーマとした METS のプロファイル（ECHO DEP プロファイル）を作成している⁽²³⁾。PREMIS の Web サイトでは、PREMIS を METS 内で扱う際のガイドラインを作成して公開するとともに、そうした METS プロファイルを掲載するなど情報提供を行っている⁽²⁴⁾。

しかし、マクドナフ（Jerome McDonough）も指摘するように、こうしたプロファイルは狭い範囲でしか通用せず、それぞれ独立して策定された標準をすり合わせるのは容易ではないようである⁽²⁵⁾。PREMIS データ辞書第 1 版の作成に携わったフロリダ図書館自動化センターのキャプラン（Priscilla Caplan）は、コーネル大学、ニューヨーク大学などをパートナーに、TIPR（Towards Interoperable Preservation Repositories）プロジェクトに取り組んでいる。TIPR では、さまざまなマッピングの試みを検討した上で、上記 ECHO DEP プロファイルを起点にして、汎用性のある交換プロファイルを定義することを目標としており、PREMIS や METS および両者の使用ガイドラインの改訂に貢献したいとしている⁽²⁶⁾。

くりやままさみつ
(常磐大学：栗山正光)

(1) DSpace. <http://www.dspace.org/>, (accessed 2009-04-12).
 (2) Eprints. <http://www.eprints.org/>, (accessed 2009-04-12).
 (3) Fedora Commons. <http://www.fedora-commons.org/>, (accessed 2009-04-12).
 (4) OAIster. <http://www.oaister.org/>, (accessed 2009-04-12).
 (5) “メタデータ・フォーマット junii2”. 国立情報学研究所.

<http://www.nii.ac.jp/irp/archive/system/junii2.html>, (参照 2009-04-12).
 (6) “国立情報学研究所 学術機関リポジトリデータベース収集方針”. 国立情報学研究所. http://www.nii.ac.jp/irp/archive/system/pdf/1_nii_irdb_shushu.pdf, (参照 2009-04-12).
 (7) JAIRO : Japanese Institutional Repositories Online. <http://jairo.nii.ac.jp/>, (参照 2009-04-12).
 (8) IRDB コンテンツ分析システム. <http://irdb.nii.ac.jp/analysis/index.php>, (参照 2009-04-12).
 (9) Open Archives Initiative Object Reuse and Exchange. <http://www.openarchives.org/ore/>, (accessed 2009-04-12).
 (10) “ORE User Guide – Primer”. <http://www.openarchives.org/ore/1.0/primer.html>, (accessed 2009-04-12).
 (11) “ORE 仕様書およびユーザガイド - 目次”. <http://www.nii.ac.jp/irp/archive/translation/oai-ore/1.0/toc.htm>, (参照 2009-04-12).
 (12) “RFC 5023: The Atom Publishing Protocol”. Internet Engineering Task Force. <http://www.ietf.org/rfc/rfc5023.txt>, (accessed 2009-04-12). 和訳版; http://www.ricoh.co.jp/src/rd/webtech/rfc5023_ja.html, (accessed 2009-04-12).
 (13) “Welcome to SWORD APP”. SWORD Site. <http://www.swordapp.org/>, (accessed 2009-04-12).
 (14) Rumsey, Sally ; O’Steen, Ben. OAI-ORE, PRESERV2 and Digital Preservation. *Ariadne*. 2008, (57). <http://www.ariadne.ac.uk/issue57/rumsey-osteen/>, (accessed 2009-04-12).
 (15) Tarrant, David et al. Using OAI-ORE to Transform Digital Repositories into Interoperable Storage and Services Applications. *The Code4Lib Journal*. 2009, (6). <http://journal.code4lib.org/articles/1062>, (accessed 2009-04-12).
 (16) PREMIS Editorial Committee. “PREMIS Data Dictionary for Preservation Metadata. version 2.0”. March 2008. <http://www.loc.gov/standards/premis/v2/premis-2.0.pdf>, (accessed 2009-04-12). 和訳版; 栗山正光訳. PREMIS 保存メタデータのためのデータ辞書. 第 2.0 版. (日本図書館協会にて翻訳権取得交渉中)
 (17) 後藤敏行. デジタル情報保存のためのメタデータ：現状と課題. *情報管理*. 2007, 50 (2), p. 74-86. <http://joilc.jst.go.jp/JST.JSTAGE/johokanri/50.74>, (参照 2009-04-12).
 (18) Hitchcock, Steve et al. “Preservation Metadata for Institutional Repositories: applying PREMIS”. *Preserv.* <http://preserv.eprints.org/papers/presmeta/presmeta-paper.html>, (accessed 2009-04-12).
 (19) Lavoie, Brian F. PREMIS With a Fresh Coat of Paint: Highlights from the Revision of the PREMIS Data Dictionary for Preservation Metadata. *D-Lib Magazine*. 2008, 14 (5/6). <http://dx.doi.org/10.1045/may2008-lavoie>, (accessed 2009-04-12).
 (20) “Schemas for PREMIS”. PREMIS: Preservation Metadata Maintenance Activity (Library of Congress). <http://www.loc.gov/standards/premis/schemas.html>, (accessed 2009-04-12).
 (21) Guenther, Rebecca S. Battle of the Buzzwords: Flexibility vs. Interoperability When Implementing PREMIS in METS. *D-Lib Magazine*. 2008, 14 (7/8). <http://dx.doi.org/10.1045/july2008-guenther>, (accessed 2009-04-12).
 (22) Pearce, Judith et al. The Australian METS Profile: A Journey about Metadata. *D-Lib Magazine*. 2008, 14 (3/4). <http://dx.doi.org/10.1045/march2008-pearce>, (accessed 2009-04-12).
 (23) “ECHO Dep Generic METS Profile for Preservation and Digital Repository Interoperability”. Metadata Encoding and Transmission Standard (METS) Official Web Site. <http://www.loc.gov/standards/mets/profiles/00000015.html>, (accessed 2009-04-12).
 (24) “Using PREMIS with METS”. PREMIS: Preservation Metadata Maintenance Activity (Library of Congress). <http://www.loc.gov/standards/premis/premis-mets.html>, (accessed 2009-04-12).
 (25) McDonough, Jerome. “Structural Metadata and the Social Limitation of Interoperability: A Sociotechnical View of XML and Digital Library Standards Development”. *Proceedings of Balisage: The Markup Conference 2008*. Montréal, Canada,

- 2008-08-12/15.
<http://balisage.net/Proceedings/print/2008/McDonough01/Balisage2008-McDonough01.html>,
(accessed 2009-04-12).
- (26) Caplan, Priscilla. Repository to Repository Transfer of Enriched Archival Information Packages. D-Lib Magazine. 2008, 14 (11/12).
<http://dx.doi.org/10.1045/november2008-caplan>,
(accessed 2009-04-12).

『カレントアウェアネス』索引

この索引は、No.272～300（2002年6月～2009年6月）の累積索引であり、
No.271に掲載した累積索引（No.251～270）に続くものである。

記事索引

《ア行》

愛国者法（米国）

- CA1474 - 動向レビュー：米国連邦政府の電子情報政策－情報アクセスをめぐる議論と"September 11th"の影響－（古賀崇）
- CA1547 - 米国愛国者法の制定と図書館の対処（中川かおり）

移民・植民

- CA1585 - 北欧の移民・難民への図書館サービス－スウェーデンとデンマークの事例から（堤恵）

医学－情報サービス－書目－解題

- CA1659 - 研究文献レビュー：今日の医学図書館（城山泰彦）

医学図書館

- CA1587 - 動向レビュー：米国立医学図書館と図書館情報学国家委員会による健康情報サービス支援事業（酒井由紀子）
- CA1659 - 研究文献レビュー：今日の医学図書館（城山泰彦）

医療－情報サービス

- CA1536 - 動向レビュー：英国の図書館における健康情報サービス－National electronic Library for Health(NeLH)（阿部信一）
- CA1587 - 動向レビュー：米国立医学図書館と図書館情報学国家委員会による健康情報サービス支援事業（酒井由紀子）

インターネット

- CA1532 - アジア諸国におけるインターネットの普及と諸要因（池田功一）
- CA1623 - ファインダビリティ向上を実現するフォークソノミー（篠原稔和）
- CA1624 - 次世代の図書館サービス？－Library 2.0とは何か（村上浩介）
- CA1636 - 中国におけるバーチャルレファレンスサービス（清水扶美子）
- CA1652 - チャットレファレンスサービスに必要な専門的能力（小田光宏）
- CA1656 - 小特集 北欧のコミュニティと公共図書館：ノルウェー（マグヌスセン矢部直美）
- CA1677 - 図書館によるAPIの公開－PORTAの事例から－（中嶋晋平）

インターネット－法令－米国

- CA1473 - 動向レビュー：「子どもをインターネットから保護する法律」と米国図書館協会（川崎良孝）
- CA1572 - 「子どもをインターネットから保護する法律」合憲判決と図書館への影響（高嶺裕樹）

ウェブアーカイビング

- CA1467 - Domain.uk－英国のウェブ・アーカイビング－（河合美穂）
- CA1490 - 動向レビュー：欧州のウェブ・アーカイビング（村上泰子、齋藤健太郎、松林正己、清水裕子、井田敦彦）
- CA1531 - 中国国家図書館のウェブ・アーカイビング（王志庚）
- CA1537 - 動向レビュー：オセアニアのウェブ・アーカイビング（五十嵐麻理世）
- CA1614 - フランス法定納本制度改正とウェブアーカイブへの対応（鈴木尊紘）
- CA1664 - IIPCを中心としたウェブアーカイブに関する動向（柴田昌樹）

ウェブサイト

- CA1584 - ウェブによる図書館の情報発信：コンテンツ・マネジメント・システムの活用（上田貴雪）
- CA1622 - 図書館サイトの現状－再点検の必要性和危機感の欠如－（岡本真）
- CA1685 - 動向レビュー：総合的図書館ポータルへの足跡－オーストラリア国立図書館の目録政策とシステム構築（那須雅照）

英国情報システム合同委員会（JISC）

- CA1501 - デジタル学術情報のアーカイビング－英国 JISC の動き－（呑海沙織）
- CA1567 - 大学における剽窃行為とその対策－英国・JISC PASを中心に－（浅見文絵）
- CA1620 - 動向レビュー：英国 JISC による教育・学習支援（呑海沙織）

英国図書館（BL）

- CA1467 - Domain.uk－英国のウェブ・アーカイビング－（河合美穂）
- CA1483 - 連携強化を図る英国の国立図書館と学術界（竹内秀樹）
- CA1545 - 動向レビュー：小特集：デジタル時代のドキュメント・デリバリー・サービス（井上佐知子、山岡規雄、上田貴雪、筑木一郎）
- CA1550 - 経営戦略としての図書館ブランディング－英国図書館のり・ブランディング事例から－（南山宏之）
- CA1588 - 動向レビュー：e-ラーニング時代の図書館サービス（三輪眞木子）

英国図書館情報専門家協会（CILIP）

- CA1491 - 英国 CILIP の活動－LA と IIS の統合－（須賀千絵）
- CA1498 - 動向レビュー：英国の読書促進活動（堀川照代）

欧州連合（EU）

- CA1490 - 動向レビュー：欧州のウェブ・アーカイビング（村上泰子、齋藤健太郎、松林正己、清水裕子、井田敦彦）
- CA1632 - 欧州連合の情報政策と欧州デジタル図書館（鈴木尊紘）

オープンアクセス

- CA1543 - 動向レビュー：科学研究出版の費用分析とビジネスモデル（芳鐘冬樹）
- CA1544 - 動向レビュー：英米両国議会における学術情報のオープンアクセス化動向（筑木一郎）
- CA1559 - 動向レビュー：オープンアクセスのインパクト分析（宮入暢子）
- CA1566 - 発展途上国における学術情報流通とオープンアクセス（竹内比呂也）
- CA1600 - 政策としてのオープンアクセス：NIH パブリックアクセス方針の現状と課題（三根慎二）
- CA1626 - 動向レビュー：日本における機関リポジトリの展開：学術情報流通と蓄積の変容（逸村裕）
- CA1632 - 欧州連合の情報政策と欧州デジタル図書館（鈴木尊紘）
- CA1639 - 研究文献レビュー：学術情報流通と大学図書館の学術情報サービス（筑木一郎）
- CA1684 - オープンアクセス・オプションとその被引用に対する効果（時実象一）

オープンソースソフトウェア

- CA1527 - 動向レビュー：DSpace をめぐる動向（荘司雅之）
- CA1529 - 図書館システムとオープンソースの利用（兼宗進）
- CA1605 - オープンソースと統合図書館システム（原田隆史）
- CA1629 - 図書館員自身の協同で作る図書館システム仕様：日本発のオープンソース図書館システム作成を目指して（原田隆史）

オントロジー（情報科学）

- CA1534 - 動向レビュー：セマンティックウェブと図書館（渡邊隆弘）
- CA1598 - 動向レビュー：ウェブ・オントロジーの可能性と図書館（神崎正英）

オンライン目録（OPAC）

- CA1466 - 動向レビュー：過去を未来へ－ニコルソン・ベーカーの願い－（薬師院はるみ）
- CA1477 - OCLC Connexion－目録作成サービスの統合－（中井恵久）
- CA1480 - 動向レビュー：AACR2改訂と FRBR をめぐって－目録法の最新動向－（和中幹雄）
- CA1482 - 動向レビュー：OpenURL と S・F・X（増田豊）
- CA1529 - 図書館システムとオープンソースの利用（兼宗進）
- CA1584 - ウェブによる図書館の情報発信：コンテンツ・マネジメント・システムの活用（上田貴雪）

- ジメント・システムの活用（上田貴雪）
CA1685 - 動向レビュー：総合的図書館ポータルへの足跡－オーストラリア国立図書館の目録政策とシステム構築（那須雅熙）

《力行》 外注管理

- CA1589 - 研究文献レビュー：図書館の様々な運営形態（柴田正美）
CA1649 - 研究文献レビュー：公共図書館政策の研究動向（松本直樹）

学校図書館

- CA1671 - 「探究」を促進する学校図書館（足立正治）

学校図書館－閲覧・利用

- CA1603 - インフォメーション・コモンズからラーニング・コモンズへ：大学図書館におけるネット世代の学習支援（米澤誠）

学校図書館－日本－書目－解題

- CA1546 - 研究文献レビュー：学校図書館に関する日本国内の研究動向（中村百合子）

学校図書館－米国

- CA1487 - 米国における学校図書館職員養成の動向（中村百合子）

学習指導

- CA1671 - 「探究」を促進する学校図書館（足立正治）

学術－情報サービス

- CA1469 - 拡大する SPARC－SPARC Europe や SPARC Japan への流れ－（井上雅子）
CA1482 - 動向レビュー：OpenURL と S・F・X（増田豊）
CA1510 - オープンコンテンツの百科事典ウィキペディア（福田亮）
CA1527 - 動向レビュー：DSpace をめぐる動向（莊司雅之）
CA1543 - 動向レビュー：科学研究出版の費用分析とビジネスモデル（芳鐘冬樹）
CA1544 - 動向レビュー：英米両国議会における学術情報のオープンアクセス化勧告（筑木一郎）
CA1559 - 動向レビュー：オープンアクセスのインパクト分析（宮入暢子）
CA1566 - 発展途上国における学術情報流通とオープンアクセス（竹内比呂也）
CA1606 - Google Scholar, Windows Live Academic Search と図書館の役割（片岡真）
CA1666 - 動向レビュー：機関リポジトリの利用統計のゆくえ（佐藤義則）
CA1684 - オープンアクセス・オプションとその被引用に対する効果（時実象一）

学術－情報サービス－英国

- CA1483 - 連携強化を図る英国の国立図書館と学術界（竹内秀樹）
CA1501 - デジタル学術情報のアーカイビング－英国 JISC の動き－（呑海沙織）
CA1620 - 動向レビュー：英国 JISC による教育・学習支援（呑海沙織）

学術－情報サービス－中国

- CA1678 - 中国における Million Book Project－中国の大学図書館の資料電子化戦略－（篠田麻美）

学術－情報サービス－ドイツ

- CA1542 - 動向レビュー：学術的ポータルをめぐる動向（米澤誠）

学術－情報サービス－日本

- CA1542 - 動向レビュー：学術的ポータルをめぐる動向（米澤誠）
CA1626 - 動向レビュー：日本における機関リポジトリの展開：学術情報流通と蓄積の変容（逸村裕）
CA1628 - 北海道大学の"果実"HUSCAP（杉田茂樹）
CA1667 - 動向レビュー：日本の学術情報流通政策を考えるために（小西和信）

学術－情報サービス－日本－書目－解題

- CA1639 - 研究文献レビュー：学術情報流通と大学図書館の学術情報サービス（筑木一郎）

学術－情報サービス－米国

- CA1542 - 動向レビュー：学術的ポータルをめぐる動向（米澤誠）
CA1600 - 政策としてのオープンアクセス：NIH パブリックアクセス方針の現状と課題（三根慎二）

学術－情報サービス－ヨーロッパ

- CA1632 - 欧州連合の情報政策と欧州デジタル図書館（鈴木尊紘）

学術図書館－英国

- CA1483 - 連携強化を図る英国の国立図書館と学術界（竹内秀樹）

学生

- CA1567 - 大学における剽窃行為とその対策－英国・JISC PAS を中心に－（浅見文絵）

貸出（図書館）

- CA1484 - ドイツのドキュメントサプライサービス subito の現在（山岡規雄）
CA1492 - 図書館での貸出有料化の問題－フランスの場合－（宮本孝正）
CA1568 - 動向レビュー：英国の公共図書館政策への批判と提言（須賀千絵）
CA1574 - 図書館への RFID 技術の導入をめぐる（小笠原美喜）
CA1579 - 動向レビュー：公共貸与権をめぐる国際動向（南亮一）

官庁出版物－米国

- CA1548 - 最後の拠り所としての政府情報コレクション（筑木一郎）
CA1569 - 動向レビュー：米国政府刊行物アーカイビングの進展（村上浩介）

機関リポジトリ

- CA1527 - 動向レビュー：DSpace をめぐる動向（莊司雅之）
CA1626 - 動向レビュー：日本における機関リポジトリの展開：学術情報流通と蓄積の変容（逸村裕）
CA1628 - 北海道大学の"果実"HUSCAP（杉田茂樹）
CA1639 - 研究文献レビュー：学術情報流通と大学図書館の学術情報サービス（筑木一郎）
CA1682 - インドの電子図書館と機関リポジトリ（水流添真紀）

機関リポジトリ－統計

- CA1666 - 動向レビュー：機関リポジトリの利用統計のゆくえ（佐藤義則）

危機管理

- CA1479 - 動向レビュー：「問題利用者」論の動向（樋山千冬）
CA1533 - 緊急時に求められる図書館サービスについて（清水扶美子）
CA1570 - インド洋大津波による図書館、文書館被害と今後の課題（坂本勇）

教育行政－日本

- CA1671 - 「探究」を促進する学校図書館（足立正治）

教育政策－米国

- CA1509 - 米国教育省による ERIC 改革案（永村恭代）

教育調査

- CA1470 - 米国およびカナダにおける図書館情報学教育の変化－カリバー（KALIPER）プロジェクト概要（小島和規）

行政－情報サービス

- CA1493 - カナダの政府情報管理政策と現状（野澤明日香）

行政情報化－米国

- CA1548 - 最後の拠り所としての政府情報コレクション（筑木一郎）
CA1560 - 動向レビュー：米国連邦政府におけるウェブサイト構築・運営の指針（古賀崇）

グーグル（Google）

- CA1564 - Google が図書館に与えるインパクト（兼宗進）
CA1606 - GoogleGoogle Scholar, Windows Live Academic Search と図書館の役割（片岡真）
CA1607 - 進化する地図の世界（津田深雪）
CA1608 - 情報検索サイトと「検閲」－"思想の自由市場"の復活に向けて－（坂田仰）

経営情報

CA1523 - 英国公共図書館のビジネス支援ポータル(桂まに子)

刑務所図書館 — カナダ

CA1549 - カナダの刑務所内図書館(山口昭夫)

計量書誌学 — 書目 — 解題

CA1687 - 研究文献レビュー: 日本における図書館情報学分野の計量的研究の動向 - 計量書誌学を中心に - (芳鐘冬樹)

検閲 — 中国

CA1608 - 情報検索サイトと「検閲」 - "思想の自由市場" の復活に向けて - (坂田仰)

検閲 — 米国

CA1618 - 米国の図書館界とSNS 検閲 (井上靖代)

研究図書館グループ (RLG)

CA1503 - RLG の新総合目録 RedLightGreen にみる図書館目録の可能性 (松井一子)

検索エンジン

CA1563 - 研究文献レビュー: 日本における情報検索技術に関する研究動向 (岸田和明)
CA1564 - Google が図書館に与えるインパクト (兼宗進)
CA1606 - Google Scholar, Windows Live Academic Search と図書館の役割 (片岡真)

現職研修 (図書館)

CA1470 - 米国およびカナダにおける図書館情報学教育の変化 - カリパー (KALIPER) プロジェクト概要 (小島和規)
CA1495 - スロバキアの遠隔研修プロジェクト PROLIB (岡本常将)
CA1505 - 動向レビュー: 図書館員教育の国際動向 (中村香織, 三浦太郎, 山形八千代, 石井奈穂子, 刈田朋子)
CA1599 - 研究文献レビュー: 大学図書館員の継続教育 (鈴木正紀)
CA1621 - 研究文献レビュー: 公共図書館職員の養成教育と継続教育 (大谷康晴)
CA1631 - 中国国家図書館の新しい人材養成プログラム (王志庚)
CA1634 - 「システムズライブラリアン」の位置づけをめぐって (澤田大祐)

現職研修 (図書館) — 書目 — 解題

CA1599 - 研究文献レビュー: 大学図書館員の継続教育 (鈴木正紀)
CA1621 - 研究文献レビュー: 公共図書館職員の養成教育と継続教育 (大谷康晴)

公共図書館→図書館

公貸権

CA1492 - 図書館での貸出有料化の問題 - フランスの場合 - (宮本孝正)
CA1528 - 研究文献レビュー: 図書館と著作権問題 (村上泰子)
CA1579 - 動向レビュー: 公共貸与権をめぐる国際動向 (南亮一)

高齢者福祉

CA1471 - 情報バリアフリーに向けた国際的な動き (大原裕子)

国際会議

CA1551 - 「2004 年ダブリンコア・メタデータ応用国際会議」(DC-2004) 開催される (坂本博)
CA1571 - 新しい国際目録原則に向けて (稲濱みのる)
CA1592 - アジア・オセアニア地域と図書館 - IFLA アジア・オセアニアセクション委員会活動より - (北村由美)
CA1688 - 2009 年アジア太平洋図書館・情報教育国際会議 (A-LIEP 2009) 開催報告 (根本彰)

国際規格

CA1460 - 図書館統計の国際標準化における動向 (徳原直子)
CA1465 - 動向レビュー: ISO/TC46 の最新動向 (菅野育子)
CA1486 - 米国におけるデジタル録音図書をめぐる動き - NLS を中心に - (深谷順子)
CA1497 - 動向レビュー: 電子図書館パフォーマンス指標に関するテクニカルレポート ISO/TR20983 の動向 (宇陀則彦)
CA1511 - Diffuse プロジェクト - 欧州における電子情報交換に関わる標準ポータルサイトの構築 - (村上泰子)
CA1653 - ISO/TR28118「国立図書館のためのパフォーマンス指標」制定の動き (徳原直子)

国際協力

CA1462 - 最近の情報環境と NCC の動向について (野口幸生)
CA1469 - 拡大する SPARC - SPARC Europe や SPARC Japan への流れ - (井上雅子)
CA1494 - PADI と Safekeeping プロジェクト (原田久義)
CA1664 - IIPC を中心としたウェブアーカイブに関する動向 (柴田昌樹)

国際図書館連盟 (IFLA)

CA1485 - ISBD の新たな展開 - ISBD (M) と (CR) - (那須雅熙)
CA1522 - イラク図書館・文書館の戦禍と復興支援 (安田浩之)
CA1557 - IFLA の CIP プログラム調査 (柴田洋子)
CA1558 - 北米の映像資料目録の動向: 動画資料を中心に (児玉優子)
CA1562 - 動向レビュー: デジタル知的財産権の権利保護に対する新たな国際的潮流 (山本順一)
CA1571 - 新しい国際目録原則に向けて (稲濱みのる)
CA1579 - 動向レビュー: 公共貸与権をめぐる国際動向 (南亮一)
CA1592 - アジア・オセアニア地域と図書館 - IFLA アジア・オセアニアセクション委員会活動より - (北村由美)
CA1609 - IFLA ソウル大会参加報告 - レファレンス・サービスをめぐる - (北川知子)
CA1610 - IFLA ソウル大会報告 - 視聴覚・マルチメディア分科会を中心に - (石塚陽子)
CA1611 - 障害者サービスの潮流 - DAISY & 統合デジタル図書館ワークショップ報告 - (原田圭子)

国際標準化機構 (ISO)

CA1460 - 図書館統計の国際標準化における動向 (徳原直子)
CA1465 - 動向レビュー: ISO/TC46 の最新動向 (菅野育子)
CA1497 - 動向レビュー: 電子図書館パフォーマンス指標に関するテクニカルレポート ISO/TR20983 の動向 (宇陀則彦)
CA1653 - ISO/TR28118「国立図書館のためのパフォーマンス指標」制定の動き (徳原直子)

国際標準図書番号 (ISBN)

CA1465 - 動向レビュー: ISO/TC46 の最新動向 (菅野育子)
CA1665 - OCLC の FRBR 化の取組み: xISBN サービスを中心に (橋詰秋子)

国際文化交流

CA1594 - ICDL (子どもの本の国際電子図書館) の活動と子どもの異文化交流 (酒井貴美子)

国際連合教育科学文化機関 (UNESCO)

CA1522 - イラク図書館・文書館の戦禍と復興支援 (安田浩之)

国立公文書館

CA1464 - 本格的電子アーカイブを目指して - アジア歴史資料センターの紹介 - (牟田昌平)

国立国会図書館

CA1593 - 資料をデジタル化するための著作権処理 (中尾康朗)
CA1596 - メタサーチ技術と国立国会図書館デジタルアーカイブポータル (吉田暁)
CA1677 - 図書館による API の公開 - PORTA の事例から - (中嶋晋平)

国立大学図書館協会

CA1553 - 動向レビュー: 図書館コンソーシアムのライフサイクル (尾城孝一)

国立図書館

CA1557 - IFLA の CIP プログラム調査 (柴田洋子)
CA1577 - 動向レビュー: 新聞資料のデジタル化をめぐる動き (大山聡)
CA1653 - ISO/TR28118「国立図書館のためのパフォーマンス指標」制定の動き (徳原直子)

国立図書館 — オーストラリア

CA1494 - PADI と Safekeeping プロジェクト (原田久義)
CA1537 - 動向レビュー: オセアニアのウェブ・アーカイビング (五十嵐麻理世)
CA1575 - オーストラリア国立図書館における資源共有へ向けての新たな取り組み (大島薫)
CA1685 - 動向レビュー: 総合的図書館ポータルへの足跡 - オーストラリア国立図書館の目録政策とシステム構築 (那須雅熙)

国立図書館 — オランダ

- CA1597 - 動向レビュー：電子ジャーナルのアーカイビング－海外の代表的事例から購読契約に与える影響まで－（後藤敏行）

国立図書館 － カナダ

- CA1493 - カナダの政府情報管理政策と現状（野澤明日香）

国立図書館 － 韓国

- CA1641 - 全世界のデジタル図書館の統合ポータルを目指して～韓国国立デジタル図書館の概要～（武田和也）

国立図書館 － 中国

- CA1531 - 中国国家図書館のウェブ・アーカイビング（王志庚）
CA1533 - 緊急時に求められる図書館サービスについて（清水扶美子）
CA1631 - 中国国家図書館の新しい人材養成プログラム（王志庚）
CA1640 - 中国国家デジタル図書館の概況（申曉娟）

国立図書館 － ドイツ

- CA1613 - ドイツにおけるオンライン出版物の法定納本制度（渡邊斉志）

国立図書館 － ニュージーランド

- CA1588 - 動向レビュー：e-ラーニング時代の図書館サービス（三輪眞木子）
CA1612 - ニュージーランドにおける法定納本制度改正の動き（熊倉優子）

国立図書館 － フランス

- CA1614 - フランス法定納本制度改正とウェブアーカイブへの対応（鈴木尊紘）

国立図書館 － ヨーロッパ

- CA1556 - 欧州図書館(The European Library)の最新情報（久古聡美）

国立民族学博物館

- CA1647 - 動向レビュー：時空間情報をキーとする文化資源アーカイブズの構想（久保正敏）

コミックマーケット準備会

- CA1672 - マンガ同人誌の保存と利活用に向けて－コミックマーケットの事例から－（里見直紀，安田かほる，筆谷芳行，市川孝一）

コンピュータ要員

- CA1634 - 「システムズライブラリアン」の位置づけをめぐって（澤田大祐）

《サ行》 災害復興

- CA1570 - インド洋大津波による図書館，文書館被害と今後の課題（坂本勇）

識字運動

- CA1498 - 動向レビュー：英国の読書促進活動（堀川照代）
CA1619 - 米国の公共図書館における成人リテラシー支援プログラムの現状と課題（瀬戸口誠）

司書教諭

- CA1671 - 「探究」を促進する学校図書館（足立正治）

司書教諭 － 日本

- CA1546 - 研究文献レビュー：学校図書館に関する日本国内の研究動向（中村百合子）

司書教諭 － 米国

- CA1487 - 米国における学校図書館職員養成の動向（中村百合子）

システム開発

- CA1527 - 動向レビュー：DSpaceをめぐる動向（莊司雅之）
CA1529 - 図書館システムとオープンソースの利用（兼宗進）
CA1605 - オープンソースと統合図書館システム（原田隆史）
CA1629 - 図書館員自身の協同で作る図書館システム仕様：日本発のオープンソース図書館システム作成を目指して（原田隆史）
CA1643 - 打破！変わらない組織と動かないシステム～パイレーツ・オブ・ライブラリアンを目指して～（田邊稔）

思想の自由

- CA1608 - 情報検索サイトと「検閲」－"思想の自由市場"の復活に向けて－（坂田仰）
CA1618 - 米国の図書館界とSNS 検閲（井上靖代）

指定管理者制度

- CA1589 - 研究文献レビュー：図書館の様々な運営形態（柴田正美）

視聴覚資料

- CA1461 - ドイツにおける児童・青少年図書館とマルチメディア（山口和人）

視聴覚資料 － 目録

- CA1558 - 北米の映像資料目録の動向：動画資料を中心に（児玉優子）

児童サービス（図書館）

- CA1504 - 動向レビュー：韓国における子ども図書館をめぐる動向（曹在順）
CA1594 - ICDL（子どもの本の国際電子図書館）の活動と子どもの異文化交流（酒井貴美子）
CA1638 - 研究文献レビュー：子どもへの読書支援と図書館サービス（岩崎れい）

児童図書

- CA1594 - ICDL（子どもの本の国際電子図書館）の活動と子どもの異文化交流（酒井貴美子）

児童図書館 － ドイツ

- CA1461 - ドイツにおける児童・青少年図書館とマルチメディア（山口和人）

児童図書館 － 韓国

- CA1504 - 動向レビュー：韓国における子ども図書館をめぐる動向（曹在順）

社会教育 － デンマーク

- CA1655 - 小特集 北欧のコミュニティと公共図書館：デンマーク（吉田右子）

社会教育 － 英国

- CA1620 - 動向レビュー：英国 JISC による教育・学習支援（呑海沙織）

出版

- CA1469 - 拡大する SPARC－SPARC Europe や SPARC Japan への流れ－（井上雅子）
CA1662 - 隠喩としての人文系学術書（長谷川一）

出版 － 情報サービス

- CA1496 - 出版情報システムの基盤整備－日本出版インフラセンターの紹介－（本間広政）

出版 － 日本

- CA1496 - 出版情報システムの基盤整備－日本出版インフラセンターの紹介－（本間広政）

賞

- CA1669 - Library of the Year－良い図書館を良いと言う－（田村俊作）

少数者集団

- CA1585 - 北欧の移民・難民への図書館サービススウェーデンとデンマークの事例から（堤恵）
CA1657 - 小特集 北欧のコミュニティと公共図書館：スウェーデン（小林ソーデルマン淳子）
CA1661 - 公共図書館の多文化サービスを進めるために－情報ニーズ調査の必要性－（平田泰子）

情報アクセシビリティ

- CA1471 - 情報バリアフリーに向けた国際的な動き（大原裕子）
CA1486 - 米国におけるデジタル録音図書をめぐる動き -NLS を中心に-（深谷順子）

情報化社会 － アジア

- CA1532 - アジア諸国におけるインターネットの普及と諸要因（池田功一）

情報化社会 － シンガポール

- CA1499 - 動向レビュー：シンガポールの図書館 IT 戦略（呑海沙織）

情報化社会 － 中国

- CA1601 - 中国「全国文化情報資源共有プロジェクト」の現状

- (湯野基生)
CA1608 - 情報検索サイトと「検閲」 - "思想の自由市場" の復活に向けて - (坂田仰)

情報科学

- CA1658 - 動向レビュー：情報学の知識構造を描き出す試み：ジンズによる Knowledge Map 研究の概要 (村主朋英)

情報教育

- CA1514 - 研究文献レビュー：利用者教育 - 「情報リテラシー」との関わりを中心に - (野末俊比古)
CA1546 - 研究文献レビュー：学校図書館に関する日本国内の研究動向 (中村百合子)
CA1567 - 大学における剽窃行為とその対策 - 英国・JISC PAS を中心に - (浅見文絵)

情報検索

- CA1542 - 動向レビュー：学術的ポータルをめぐる動向 (米澤誠)
CA1564 - Google が図書館に与えるインパクト (兼宗進)
CA1596 - メタサーチ技術と国立国会図書館デジタルアーカイブポータル (吉田曉)
CA1606 - Google Scholar, Windows Live Academic Search と図書館の役割 (片岡真)
CA1608 - 情報検索サイトと「検閲」 - "思想の自由市場" の復活に向けて - (坂田仰)
CA1623 - ファインダビリティ向上を実現するフォークソノミー (篠原稔和)
CA1651 - アフォーダンス理論に基づく情報行動研究の可能性 (坪井伸樹)
CA1685 - 動向レビュー：総合的図書館ポータルへの足跡 - オーストラリア国立図書館の目録政策とシステム構築 (那須雅熙)

情報検索 - 書目 - 解説

- CA1563 - 研究文献レビュー：日本における情報検索技術に関する研究動向 (岸田和明)

情報サービス

- CA1562 - 動向レビュー：デジタル知的財産権の権利保護に対する新たな国際的潮流 (山本順一)
CA1661 - 公共図書館の多文化サービスを進めるために - 情報ニーズ調査の必要性 - (平田泰子)

情報サービス - 英国

- CA1500 - 英国「国民のネットワーク」の成果と今後 (橋詰秋子)
CA1523 - 英国公共図書館のビジネス支援ポータル (桂まに子)

情報サービス - 米国

- CA1474 - 動向レビュー：米国連邦政府の電子情報政策 - 情報アクセスをめぐる議論と "September 11th" の影響 - (古賀崇)

情報処理 - 規格

- CA1511 - Diffuse プロジェクト - 欧州における電子情報交換に関わる標準ポータルサイトの構築 - (村上泰子)

情報倫理

- CA1654 - 情報倫理と図書館 (後藤敏行)

書誌コントロール

- CA1650 - 書誌コントロールの将来に向けた LC の取り組み (倉光典子)

書誌ユーティリティ

- CA1477 - OCLC Connexion - 目録作成サービスの統合 - (中井恵久)
CA1503 - RLG の新総合目録 RedLightGreen にみる図書館目録の可能性 (松井一子)

書籍商 - 米国

- CA1642 - 図書館と書店のコラボレーション～淘汰と対立を越えて (福岡聡)

ショッピングセンター

- CA1576 - ショッピングセンターと公共図書館 (鈴木均)

資料収集 (図書館)

- CA1468 - 英国の公共図書館における電子情報の収集 - 図書館コンソーシアムの可能性 - (橋詰秋子)
CA1531 - 中国国家図書館のウェブ・アーカイビング (王志庚)
CA1637 - 日本における漫画の保存と利用 (内記 稔夫, 秋田孝宏)

- CA1641 - 全世界のデジタル図書館の統合ポータルを目指して - 韓国国立デジタル図書館の概要 - (武田和也)

資料組織化

- CA1480 - 動向レビュー：AACR2 改訂と FRBR をめぐって - 目録法の最新動向 - (和中幹雄)
CA1521 - バーチャル国際典拠ファイル - その試みと可能性 - (鈴木智之)
CA1557 - IFLA の CIP プログラム調査 (柴田洋子)
CA1617 - 研究図書館目録の危機と将来像 - 3 機関の報告書から - (渡邊隆弘)
CA1686 - 動向レビュー：RDA 全体草案とその前後 (古川肇)

知る権利

- CA1618 - 米国の図書館界と SNS 検閲 (井上靖代)

新聞

- CA1577 - 動向レビュー：新聞資料のデジタル化をめぐる動き (大山聡)

身体障害者福祉

- CA1471 - 情報バリアフリーに向けた国際的な動き (大原裕子)

人文科学

- CA1662 - 隠喩としての人文系学術書 (長谷川一)

世界知的所有権機関 (WIPO)

- CA1562 - 動向レビュー：デジタル知的財産権の権利保護に対する新たな国際的潮流 (山本順一)

セマンティックウェブ

- CA1534 - 動向レビュー：セマンティックウェブと図書館 (渡邊隆弘)
CA1565 - RSS の発展と図書館サービスへの応用 (田邊稔)
CA1598 - 動向レビュー：ウェブ・オントロジーの可能性と図書館 (神崎正英)

専門図書館 - 日本

- CA1637 - 日本における漫画の保存と利用 (内記 稔夫, 秋田孝宏)

総合目録

- CA1503 - RLG の新総合目録 RedLightGreen にみる図書館目録の可能性 (松井一子)
CA1575 - オーストラリア国立図書館における資源共有へ向けての新たな取り組み (大島薫)
CA1685 - 動向レビュー：総合的図書館ポータルへの足跡 - オーストラリア国立図書館の目録政策とシステム構築 (那須雅熙)

ソーシャルネットワーキングサービス (SNS)

- CA1618 - 米国の図書館界と SNS 検閲 (井上靖代)
CA1624 - 次世代の図書館サービス? - Library 2.0 とは何か (村上浩介)

ソフトウェア

- CA1482 - 動向レビュー：OpenURL と S・F・X (増田豊)
CA1527 - 動向レビュー：DSpace をめぐる動向 (莊司雅之)
CA1529 - 図書館システムとオープンソースの利用 (兼宗進)
CA1605 - オープンソースと統合図書館システム (原田隆史)
CA1629 - 図書館員自身の協同で作る図書館システム仕様：日本発のオープンソース図書館システム作成を目指して (原田隆史)

《タ行》

大学図書館

- CA1553 - 動向レビュー：図書館コンソーシアムのライフサイクル (尾城孝一)
CA1648 - 動向レビュー：大学図書館と電子ブック (加藤信哉)

大学図書館 - 英国

- CA1603 - インフォメーション・コモンスからラーニング・コモンスへ：大学図書館におけるネット世代の学習支援 (米澤誠)

大学図書館 - 中国

- CA1678 - 中国における Million Book Project - 中国の大学図書館の資料電子化戦略 - (篠田麻美)

大学図書館 - 日本

- CA1599 - 研究文献レビュー：大学図書館員の継続教育 (鈴木正紀)
CA1639 - 研究文献レビュー：学術情報流通と大学図書館の学

- 術情報サービス (筑木一郎)
CA1643 - 打破! 変わらない組織と動かないシステム～パイレーツ・オブ・ライブライアンを目指して～ (田邊稔)

大学図書館 - 米国

- CA1593 - 資料をデジタル化するための著作権処理 (中尾康朗)
CA1603 - インフォメーション・コモンズからラーニング・コモンズへ: 大学図書館におけるネット世代の学習支援 (米澤誠)

男女平等

- CA1674 - 「男性図書館員」の肖像 (河合将彦)

知的財産権

- CA1562 - 動向レビュー: デジタル知的財産権の権利保護に対する新たな国際的潮流 (山本順一)
CA1567 - 大学における剽窃行為とその対策 - 英国・JISC PAS を中心に - (浅見文絵)
CA1541 - 動向レビュー: 情報コモンズ: 情報基盤の私事化と民主主義の健全性 (坂田仰)

地図

- CA1607 - 進化する地図の世界 (津田深雪)

地理情報システム (GIS)

- CA1607 - 進化する地図の世界 (津田深雪)

著作権

- CA1541 - 動向レビュー: 情報コモンズ: 情報基盤の私事化と民主主義の健全性 (坂田仰)
CA1562 - 動向レビュー: デジタル知的財産権の権利保護に対する新たな国際的潮流 (山本順一)
CA1579 - 動向レビュー: 公共貸与権をめぐる国際動向 (南亮一)

著作権 - データ処理

- CA1593 - 資料をデジタル化するための著作権処理 (中尾康朗)

著作権 - 中国

- CA1472 - 中国の電子図書館「超星数字図書館」(安藤一博)

著作権 - 日本 - 書目 - 解説

- CA1528 - 研究文献レビュー: 図書館と著作権問題 (村上泰子)

著作権 - 米国

- CA1478 - 動向レビュー: デジタル・ミレニアム著作権法施行から2年 (米国) (山本順一)
CA1510 - オープンコンテンツの百科事典ウィキペディア (福田亮)
CA1541 - 動向レビュー: 情報コモンズ: 情報基盤の私事化と民主主義の健全性 (坂田仰)

著作権法 - フランス

- CA1492 - 図書館での貸出有料化の問題 - フランスの場合 - (宮本孝正)

著作権法 - 日本

- CA1604 - 日米における著作権法の図書館関係制限規定の見直しの動き (鳥澤孝之)

著作権法 - 米国

- CA1478 - 動向レビュー: デジタル・ミレニアム著作権法施行から2年 (米国) (山本順一)
CA1541 - 動向レビュー: 情報コモンズ: 情報基盤の私事化と民主主義の健全性 (坂田仰)
CA1604 - 日米における著作権法の図書館関係制限規定の見直しの動き (鳥澤孝之)

データベース

- CA1509 - 米国教育省による ERIC 改革案 (永村恭代)
CA1513 - 動向レビュー: OAI-PMH をめぐる動向 (尾城孝一)
CA1542 - 動向レビュー: 学術的ポータルをめぐる動向 (米澤誠)

データマイニング

- CA1515 - 電子ジャーナル利用の傾向と対策 (阿藤品治夫)

デジタルアーカイブ

- CA1464 - 本格的電子アーカイブを目指して - アジア歴史資料センターの紹介 - (牟田昌平)
CA1489 - 動向レビュー: デジタル情報保存のためのメタデータに関する動向 (栗山正光)
CA1494 - PADI と Safekeeping プロジェクト (原田久義)

- CA1501 - デジタル学術情報のアーカイビング - 英国 JISC の動き - (呑海沙織)
CA1502 - 国家規模でデジタル情報を保存する - LC 主導の NDIIPP が本格始動 - (塩崎亮)
CA1520 - 動向レビュー: デジタル情報の長期的な保存にともなう経済的課題 (今野篤)
CA1548 - 最後の拠り所としての政府情報コレクション (筑木一郎)
CA1561 - 動向レビュー: デジタル資料保存リポジトリの動向 (栗山正光)
CA1569 - 動向レビュー: 米国政府刊行物アーカイビングの進展 (村上浩介)
CA1596 - メタサーチ技術と国立国会図書館デジタルアーカイブポータル (吉田暁)
CA1597 - 動向レビュー: 電子ジャーナルのアーカイビング - 海外の代表的事例から購読契約に与える影響まで - (後藤敏行)
CA1601 - 中国「全国文化情報資源共有プロジェクト」の現状 (湯野基生)
CA1604 - 日米における著作権法の図書館関係制限規定の見直しの動き (鳥澤孝之)
CA1610 - IFLA ソウル大会報告 - 視聴覚・マルチメディア分科会を中心に - (石塚陽子)
CA1645 - 電子ジャーナルのアーカイビングの現状: レポート E-Journal Archiving Metes and Bounds を中心に (後藤敏行)
CA1677 - 図書館による API の公開 - PORTA の事例から - (中嶋晋平)
CA1681 - 電子情報長期保存のための評価ツール DRAMBORA - NDJ における試験評価の試みから (奥田倫子, 伊沢恵子)
CA1682 - インドの電子図書館と機関リポジトリ (水流添真紀)

典拠コントロール

- CA1521 - バーチャル国際典拠ファイル - その試みと可能性 - (鈴木智之)
CA1534 - 動向レビュー: セマンティックウェブと図書館 (渡邊隆弘)

点字図書館

- CA1611 - 障害者サービスの潮流 - DAISY & 統合デジタル図書館ワークショップ報告 - (原田圭子)

電子雑誌

- CA1462 - 最近の情報環境と NCC の動向について (野口幸生)
CA1481 - 動向レビュー: CrossRef をめぐる動向 (尾城孝一)
CA1512 - 動向レビュー: 電子ジャーナルの出版・契約・利用統計 (加藤信哉)
CA1513 - 動向レビュー: OAI-PMH をめぐる動向 (尾城孝一)
CA1515 - 電子ジャーナル利用の傾向と対策 (阿藤品治夫)
CA1530 - 電子ジャーナルのコンソーシアム利用が大学図書館の文献アブリリーへ及ぼす影響 (加藤信哉)
CA1553 - 動向レビュー: 図書館コンソーシアムのライフサイクル (尾城孝一)
CA1559 - 動向レビュー: オープンアクセスのインパクト分析 (宮入暢子)
CA1566 - 発展途上国における学術情報流通とオープンアクセス (竹内比呂也)
CA1582 - ES 細胞論文捏造事件に見る電子ジャーナルの効用と課題 (村上浩介)
CA1586 - 動向レビュー: 電子ジャーナルのビッグ・ディールが大学図書館へ及ぼす経済的影響について (加藤信哉)
CA1597 - 動向レビュー: 電子ジャーナルのアーカイビング - 海外の代表的事例から購読契約に与える影響まで - (後藤敏行)
CA1626 - 動向レビュー: 日本における機関リポジトリの展開: 学術情報流通と蓄積の変容 (逸村裕)
CA1639 - 研究文献レビュー: 学術情報流通と大学図書館の学術情報サービス (筑木一郎)
CA1684 - オープンアクセス・オプションとその被引用に対する効果 (時実象一)
CA1690 - 動向レビュー: デジタルリポジトリにおけるメタデータ交換の動向 (栗山正光)

電子雑誌 - 保存・修復

- CA1597 - 動向レビュー: 電子ジャーナルのアーカイビング - 海外の代表的事例から購読契約に与える影響まで - (後藤敏行)
CA1645 - 電子ジャーナルのアーカイビングの現状: レポート E-Journal Archiving Metes and Bounds を中心に (後藤敏行)

電子資料

- CA1472 - 中国の電子図書館「超星数字図書館」(安藤一博)
 CA1513 - 動向レビュー: OAI-PMH をめぐる動向 (尾城孝一)
 CA1516 - インドにおけるナショナルサイトライセンスの実践
 - 国家的プロジェクト INDEST コンソーシアム -
 (松井祐次郎)
 CA1524 - 電子資料の共同購入 - ニュージーランドのナショナル
 サイトライセンス EPIC - (柴田容子)
 CA1525 - 公共図書館における電子本の導入 (正田恵子)
 CA1528 - 研究文献レビュー: 図書館と著作権問題 (村上泰子)
 CA1545 - 動向レビュー: 小特集: デジタル時代のドキュメン
 ト・デリバリー・サービス (井上佐知子, 山岡規雄,
 上田貴雪, 筑木一郎)
 CA1553 - 動向レビュー: 図書館コンソーシアムのライフサイ
 クル (尾城孝一)
 CA1564 - Google が図書館に与えるインパクト (兼宗進)
 CA1609 - IFLA ソウル大会参加報告 - レファレンス・サー
 ビスをめぐって - (北川知子)
 CA1648 - 動向レビュー: 大学図書館と電子ブック (加藤信哉)
 CA1682 - インドの電子図書館と機関リポジトリ (水流添真紀)
 CA1690 - 動向レビュー: デジタルリポジトリにおけるメ
 タデータ交換の動向 (栗山正光)

電子資料 - 保存・修復

- CA1463 - EAJRS 回顧と展望 - 今後への指標として - (松江
 万里子)
 CA1464 - 本格的電子アーカイブを目指して - アジア歴史資料
 センターの紹介 - (牟田昌平)
 CA1467 - Domain.uk - 英国のウェブ・アーカイビング - (河
 合美穂)
 CA1468 - 英国の公共図書館における電子情報の収集 - 図書館
 コンソーシアムの可能性 - (橋詰秋子)
 CA1481 - 動向レビュー: CrossRef をめぐる動向 (尾城孝一)
 CA1489 - 動向レビュー: デジタル情報保存のためのメタデー
 タに関する動向 (栗山正光)
 CA1490 - 動向レビュー: 欧州のウェブ・アーカイビング (村
 上泰子, 齋藤健太郎, 松林正己, 清水裕子, 井田敦彦)
 CA1494 - PADI と Safekeeping プロジェクト (原田久義)
 CA1501 - デジタル学術情報のアーカイビング - 英国 JISC の
 動き - (呑海沙織)
 CA1502 - 国家規模でデジタル情報を保存する - LC 主導の
 NDIPP が本格始動 - (塩崎亮)
 CA1520 - 動向レビュー: デジタル情報の長期的な保存にとも
 なう経済的課題 (今野篤)
 CA1531 - 中国国家図書館のウェブ・アーカイビング (王志庚)
 CA1537 - 動向レビュー: オセアニアのウェブ・アーカイビン
 グ (五十嵐麻理世)
 CA1548 - 最後の拠り所としての政府情報コレクション (筑木
 一郎)
 CA1552 - 動向レビュー: MARC とメタデータのクロスウォ
 ーク (佐藤康之)
 CA1558 - 北米の映像資料目録の動向: 動画資料を中心に (児
 玉優子)
 CA1561 - 動向レビュー: デジタル資料保存リポジトリの動向
 (栗山正光)
 CA1569 - 動向レビュー: 米国政府刊行物アーカイビングの進
 展 (村上浩介)
 CA1577 - 動向レビュー: 新聞資料のデジタル化をめぐる動き
 (大山聡)
 CA1593 - 資料をデジタル化するための著作権処理 (中尾康朗)
 CA1597 - 動向レビュー: 電子ジャーナルのアーカイビング -
 海外の代表的事例から購読契約に与える影響まで
 - (後藤敏行)
 CA1601 - 中国「全国文化情報資源共有プロジェクト」の現状
 (湯野基生)
 CA1604 - 日米における著作権法の図書館関係制限規定の見直
 しの動き (鳥澤孝之)
 CA1612 - ニュージーランドにおける法定納本制度改正の動き
 (熊倉優子)
 CA1632 - 欧州連合の情報政策と欧州デジタル図書館 (鈴木尊
 紘)
 CA1640 - 中国国家デジタル図書館の概況 (中嶋娟)
 CA1641 - 全世界のデジタル図書館の統合ポータルを目指して
 ~ 韓国国立デジタル図書館の概要 ~ (武田和也)
 CA1644 - 欧米における図書館、文書館、博物館の連携 -
 Cultural Heritage Sector としての図書館 - (菅野
 育子)
 CA1681 - 電子情報長期保存のための評価ツール DRAMBORA
 - NDL における試験評価の試みから (奥田倫子,
 伊沢恵子)
 CA1683 - 光/磁気ディスク、フラッシュメモリの劣化と寿命
 (大島茂樹)

電子資料 - 保存・修復 - 書目 - 解題

- CA1506 - 研究文献レビュー: 電子資料と目録規則, メタデー

タ, リンキング・テクノロジー (北克一)

電子資料 - 目録法

- CA1480 - 動向レビュー: AACR2 改訂と FRBR をめぐって -
 目録法の最新動向 - (和中原雄)
 CA1485 - ISBD の新たな展開 - ISBD (M) と (CR) - (那
 須雅照)
 CA1486 - 米国におけるデジタル録音図書をめぐる動き - NLS
 を中心に - (深谷順子)

電子出版

- CA1469 - 拡大する SPARC - SPARC Europe や SPARC Japan
 への流れ - (井上雅子)
 CA1481 - 動向レビュー: CrossRef をめぐる動向 (尾城孝一)
 CA1490 - 動向レビュー: 欧州のウェブ・アーカイビング (村
 上泰子, 齋藤健太郎, 松林正己, 清水裕子, 井田敦彦)
 CA1512 - 動向レビュー: 電子ジャーナルの出版・契約・利用
 統計 (加藤信哉)
 CA1525 - 公共図書館における電子本の導入 (正田恵子)
 CA1543 - 動向レビュー: 科学研究出版の費用分析とビジネス
 モデル (芳鐘冬樹)
 CA1648 - 動向レビュー: 大学図書館と電子ブック (加藤信哉)
 CA1662 - 隠喩としての人文系学術書 (長谷川一)
 CA1684 - オープンアクセス・オプションとその被引用に対す
 る効果 (時実象一)

電子図書館

- CA1467 - Domain.uk - 英国のウェブ・アーカイビング - (河
 合美穂)
 CA1472 - 中国の電子図書館「超星数字図書館」(安藤一博)
 CA1483 - 連携強化を図る英国の国立図書館と学術界 (竹内秀
 樹)
 CA1497 - 動向レビュー: 電子図書館パフォーマンス指標に関
 するテクニカルレポート ISO/TR20983 の動向 (宇
 陀則彦)
 CA1513 - 動向レビュー: OAI-PMH をめぐる動向 (尾城孝一)
 CA1525 - 公共図書館における電子本の導入 (正田恵子)
 CA1526 - 動向レビュー: LibQUAL + TM の展開と図書館サー
 ビスの品質評価 (佐藤義則)
 CA1531 - 中国国家図書館のウェブ・アーカイビング (王志庚)
 CA1536 - 動向レビュー: 英国の図書館における健康情報サー
 ビス - National electronic Library for Health (NeLH)
 (阿部信一)
 CA1537 - 動向レビュー: オセアニアのウェブ・アーカイビン
 グ (五十嵐麻理世)
 CA1578 - 動向レビュー: 韓国における図書館情報政策の動向
 (曹在順)
 CA1580 - 動向レビュー: 「場所としての図書館」をめぐる議
 論 (根本彰)
 CA1593 - 資料をデジタル化するための著作権処理 (中尾康朗)
 CA1594 - ICDL (子どもの本の国際電子図書館) の活動と子
 どもの異文化交流 (酒井貴美子)
 CA1596 - メタサーチ技術と国立国会図書館デジタルアーカイ
 ブポータル (吉田暁)
 CA1598 - 動向レビュー: ウェブ・オンロジーの可能性と図
 書館 (神崎正英)
 CA1610 - IFLA ソウル大会報告 - 視聴覚・マルチメディア分
 科会を中心に - (石塚陽子)
 CA1616 - ナレッジ・ベース社会に向けたタイの図書館の立場
 (Surat Lertlum, Sarawat Ninsawat)
 CA1632 - 欧州連合の情報政策と欧州デジタル図書館 (鈴木尊
 紘)
 CA1640 - 中国国家デジタル図書館の概況 (中嶋娟)
 CA1641 - 全世界のデジタル図書館の統合ポータルを目指して
 ~ 韓国国立デジタル図書館の概要 ~ (武田和也)
 CA1644 - 欧米における図書館、文書館、博物館の連携 -
 Cultural Heritage Sector としての図書館 - (菅野
 育子)
 CA1678 - 中国における Million Book Project - 中国の大学図
 書館の資料電子化戦略 - (篠田麻美)
 CA1681 - 電子情報長期保存のための評価ツール DRAMBORA
 - NDL における試験評価の試みから (奥田倫子,
 伊沢恵子)
 CA1682 - インドの電子図書館と機関リポジトリ (水流添真紀)
 CA1690 - 動向レビュー: デジタルリポジトリにおけるメ
 タデータ交換の動向 (栗山正光)

ドキュメンテーション

- CA1474 - 動向レビュー: 米国連邦政府の電子情報政策 - 情報
 アクセスをめぐる議論と "September 11th" の影響
 - (古賀崇)
 CA1493 - カナダの政府情報管理政策と現状 (野澤明日香)
 CA1510 - オープンコンテンツの百科事典ウィキペディア (福
 田亮)

- CA1511 - Diffuse プロジェクト－欧州における電子情報交換に関わる標準ポータルサイトの構築－（村上泰子）
- CA1519 - 動向レビュー：中国図書館界におけるナレッジ・マネジメントの動向（李常慶）
- CA1527 - 動向レビュー：DSpace をめぐる動向（莊司雅之）
- CA1543 - 動向レビュー：科学研究出版の費用分析とビジネスモデル（芳鐘冬樹）
- CA1544 - 動向レビュー：英米両国議会における学術情報のオープンアクセス化動向（筑木一郎）
- CA1559 - 動向レビュー：オープンアクセスのインパクト分析（宮入暢子）
- CA1566 - 発展途上国における学術情報流通とオープンアクセス（竹内比呂也）
- CA1574 - 図書館へのRFID 技術の導入をめぐる（小笠原美喜）
- CA1600 - 政策としてのオープンアクセス：NIH パブリックアクセス方針の現状と課題（三根慎二）
- CA1626 - 動向レビュー：日本における機関リポジトリの展開：学術情報流通と蓄積の姿容（逸村裕）
- CA1628 - 北海道大学の"果実"HUSCAP（杉田茂樹）
- CA1666 - 動向レビュー：機関リポジトリの利用統計のゆくえ（佐藤義則）
- CA1678 - 中国における Million Book Project－中国の大学図書館の資料電子化戦略－（篠田麻美）
- CA1681 - 電子情報長期保存のための評価ツール DRAMBORA－NDL における試験評価の試みから（奥田倫子、伊沢恵子）
- CA1682 - インドの電子図書館と機関リポジトリ（水流添真紀）

読書指導－英国

- CA1498 - 動向レビュー：英国の読書促進活動（堀川照代）

読書指導－韓国

- CA1635 - 韓国の図書館関連法規の最新動向（金容媛）

読書指導－日本－書目－解題

- CA1638 - 研究文献レビュー：子どもへの読書支援と図書館サービス（岩崎れい）

特別支援教育

- CA1546 - 研究文献レビュー：学校図書館に関する日本国内の研究動向（中村百合子）

図書－保存・修復

- CA1466 - 動向レビュー：過去を未来へ－ニコルソン・ベーカーの願い－（薬師院はるみ）
- CA1630 - 災害時における資料保全活動の一元化（尾立和則）

図書－保存・修復－イラク

- CA1522 - イラク図書館・文書館の戦禍と復興支援（安田浩之）

図書－保存・修復－インドネシア

- CA1570 - インド洋大津波による図書館、文書館被害と今後の課題（坂本勇）

図書－保存・修復－書目－解題

- CA1680 - 研究文献レビュー：図書館における紙資料の実物保存（吉川也志保）

図書－保存・修復－米国

- CA1548 - 最後の拠り所としての政府情報コレクション（筑木一郎）

図書館－アジア

- CA1592 - アジア・オセアニア地域と図書館－IFLA アジア・オセアニアセクション委員会活動より－（北村由美）

図書館－イラク

- CA1522 - イラク図書館・文書館の戦禍と復興支援（安田浩之）

図書館－英国

- CA1468 - 英国の公共図書館における電子情報の収集－図書館コンソーシアムの可能性－（橋詰秋子）
- CA1475 - 動向レビュー：英国の公共図書館評価の動向－パフォーマンス指標と図書館基準を中心に－（須賀千絵）
- CA1491 - 英国CILIPの活動－LA と IIS の統合－（須賀千絵）
- CA1498 - 動向レビュー：英国の読書促進活動（堀川照代）
- CA1500 - 英国「国民のネットワーク」の成果と今後（橋詰秋子）
- CA1523 - 英国公共図書館のビジネス支援ポータル（桂まに子）
- CA1538 - Ask a Librarian (UK) の概要と協同事業としての課題（依田紀久）
- CA1568 - 動向レビュー：英国の公共図書館政策への批判と提

言（須賀千絵）

図書館－閲覧・利用

- CA1472 - 中国の電子図書館「超星数字図書館」（安藤一博）
- CA1479 - 動向レビュー：「問題利用者」論の動向（樋山千冬）
- CA1484 - ドイツのドキュメントサブライサービス subito の現在（山岡規雄）
- CA1508 - フランスにおける公共図書館利用の停滞感（豊田透）
- CA1514 - 研究文献レビュー：利用者教育－「情報リテラシー」との関わりを中心に－（野末俊比古）
- CA1545 - 動向レビュー：小特集：デジタル時代のドキュメント・デリバリー・サービス（井上佐知子、山岡規雄、上田貴雪、筑木一郎）
- CA1602 - 利用者のセグメンテーション：シンガポールにおける利用者志向の図書館戦略（呑海沙織）
- CA1607 - 進化する地図の世界（津田深雪）

図書館－閲覧・利用－シンガポール

- CA1517 - シンガポールの DIY 図書館（井上健太）

図書館－閲覧・利用－日本

- CA1675 - 読むなら飲むな？－図書館における飲料問題－（島村聡明）

図書館－オートメーション

- CA1517 - シンガポールの DIY 図書館（井上健太）
- CA1574 - 図書館へのRFID 技術の導入をめぐる（小笠原美喜）

図書館－オセアニア

- CA1592 - アジア・オセアニア地域と図書館－IFLA アジア・オセアニアセクション委員会活動より－（北村由美）

図書館－カナダ

- CA1493 - カナダの政府情報管理政策と現状（野澤明日香）

図書館－韓国

- CA1504 - 動向レビュー：韓国における子ども図書館をめぐる動向（曹在順）
- CA1578 - 動向レビュー：韓国における図書館情報政策の動向（曹在順）
- CA1635 - 韓国の図書館関連法規の最新動向（金容媛）

図書館－シンガポール

- CA1499 - 動向レビュー：シンガポールの図書館 IT 戦略（呑海沙織）
- CA1602 - 利用者のセグメンテーション：シンガポールにおける利用者志向の図書館戦略（呑海沙織）

図書館－スウェーデン

- CA1585 - 北欧の移民・難民への図書館サービス－スウェーデンとデンマークの事例から（堤恵）
- CA1657 - 小特集 北欧のコミュニティと公共図書館：スウェーデン（小林ソーデルマン淳子）

図書館－タイ

- CA1616 - ナレッジ・ベース社会に向けたタイの図書館の立場（Surat Lertlum, Sarawat Ninsawat）

図書館－中国

- CA1472 - 中国の電子図書館「超星数字図書館」（安藤一博）
- CA1519 - 動向レビュー：中国図書館界におけるナレッジ・マネジメントの動向（李常慶）
- CA1601 - 中国「全国文化情報資源共有プロジェクト」の現状（湯野基生）
- CA1636 - 中国におけるバーチャルレファレンスサービス（清水扶美子）

図書館－中国－上海

- CA1507 - ネット上での合同レファレンスシステムと文献資源共有との関係－上海図書館と知識ナビゲーション合同ネット（金紅亜、張軼）

図書館－デンマーク

- CA1539 - デンマークの公共図書館における新たな有料サービス（岡田悟）
- CA1585 - 北欧の移民・難民への図書館サービス－スウェーデンとデンマークの事例から（堤恵）
- CA1655 - 小特集 北欧のコミュニティと公共図書館：デンマーク（吉田右子）

図書館－ドイツ

- CA1461 - ドイツにおける児童・青少年図書館とマルチメディア

- CA1484 - ア (山口和人)
ドイツのドキュメントサブライサー subito の現在 (山岡規雄)
CA1679 - 動向レビュー:「Bibliothek 2012」～ドイツの図書館振興の現在～ (伊藤白)

図書館 — 日本

- CA1514 - 研究文献レビュー:利用者教育—「情報リテラシー」との関わりを中心に— (野末俊比古)
CA1605 - オープンソースと統合図書館システム (原田隆史)
CA1629 - 図書館員自身の協同で作る図書館システム仕様:日本発のオープンソース図書館システム作成を目指して (原田隆史)
CA1668 - 研究文献レビュー:学習・教育基盤としての図書館 (米澤誠)
CA1669 - Library of the Year — 良い図書館を良いと言う — (田村俊作)

図書館 — ニュージーランド

- CA1524 - 電子資料の共同購入—ニュージーランドのナショナルサイトライセンス EPIC — (柴田容子)
CA1537 - 動向レビュー: オセアニアのウェブ・アーカイビング (五十嵐麻理世)

図書館 — ノルウェー

- CA1656 - 小特集 北欧のコミュニティと公共図書館: ノルウェー (マグヌスセン矢部直美)

図書館 — フランス

- CA1492 - 図書館での貸出有料化の問題—フランスの場合— (宮本孝正)
CA1508 - フランスにおける公共図書館利用の停滞感 (豊田透)

図書館 — 米国

- CA1466 - 動向レビュー:過去を未来へ—ニコルソン・ベーカーの願い— (薬師院はるみ)
CA1473 - 動向レビュー:「子どもをインターネットから保護する法律」と米国図書館協会 (川崎良孝)
CA1547 - 米国愛国者法の制定と図書館の対処 (中川かおり)
CA1558 - 北米の映像資料目録の動向: 動画資料を中心に (児玉優子)
CA1573 - 図書館長のリーダーシップのあり方を巡る世代間議論 (安井一徳)
CA1583 - 図書館員の大量退職に潜む構造的変化—米国における図書館員不足の状況 (早瀬均)
CA1587 - 動向レビュー: 米国国立医学図書館と図書館情報学国家委員会による健康情報サービス支援事業 (酒井由紀子)
CA1595 - 米国の図書館における録音図書サービス—デジタル技術を活用した録音図書— (井関哲司)
CA1618 - 米国の図書館界と SNS 検閲 (井上靖代)
CA1619 - 米国の公共図書館における成人リテラシー支援プログラムの現状と課題 (瀬戸口誠)
CA1642 - 図書館と書店のコラボレーション～淘汰と対立を越えて (福岡聡)
CA1645 - 電子ジャーナルのアーカイビングの現状: レポート E-Journal Archiving Metes and Bounds を中心に (後藤敏行)
CA1646 - 動向レビュー: 米国における図書館アドヴォカシーの展開 (福田都代)
CA1669 - Library of the Year — 良い図書館を良いと言う — (田村俊作)
CA1689 - 経済低迷期と向かい合う米国公共図書館 (依田紀久)

図書館 — ベトナム — 歴史

- CA1615 - ベトナムの図書館の概要 (Nguyen Hoa Binh)

図書館 — 有料化

- CA1492 - 図書館での貸出有料化の問題—フランスの場合— (宮本孝正)
CA1539 - デンマークの公共図書館における新たな有料サービス (岡田悟)

図書館 — 歴史 — 書目 — 解説

- CA1673 - 研究文献レビュー: 図書館史 (三浦太郎)

図書館員

- CA1476 - CDRS から発展型デジタルリファレンスサービスへ—QuestionPointの開始— (浅見文絵)
CA1505 - 動向レビュー: 図書館員教育の国際動向 (中村香織, 三浦太郎, 山形八千代, 石井奈穂子, 刈田朋子)
CA1518 - 動向レビュー: ライブラリアンとナレッジ・マネジメント (梅本勝博)
CA1625 - 動向レビュー: 根拠に基づいた図書館業務の設計—

- 実践家の成果の共有を目指す EBLIP の動向— (依田紀久)
CA1651 - アフォーダンス理論に基づく情報行動研究の可能性 (坪井伸樹)
CA1652 - チャットリファレンスサービスに必要な専門的能力 (小田光宏)
CA1663 - 開発途上国における図書館情報学教育 (三輪真木子)

図書館員 — 英国

- CA1491 - 英国 CILIP の活動— LA と IIS の統合— (須賀千絵)

図書館員 — 雇用 — 日本

- CA1674 - 「男性図書館員」の肖像 (河合将彦)

図書館員 — 中国

- CA1631 - 中国国家図書館の新しい人材養成プログラム (王志庚)

図書館員 — デンマーク

- CA1539 - デンマークの公共図書館における新たな有料サービス (岡田悟)

図書館員 — 日本

- CA1555 - 研究文献レビュー: リファレンスサービスの新しい潮流 (小田光宏)
CA1599 - 研究文献レビュー: 大学図書館員の継続教育 (鈴木正紀)
CA1621 - 研究文献レビュー: 公共図書館職員の養成教育と継続教育 (大谷康晴)
CA1629 - 図書館員自身の協同で作る図書館システム仕様: 日本発のオープンソース図書館システム作成を目指して (原田隆史)

図書館員 — 日本 — 統計

- CA1674 - 「男性図書館員」の肖像 (河合将彦)

図書館員 — フィリピン

- CA1540 - フィリピン・ライブラリアンシップ法—専門職の法による確立— (北村由美)

図書館員 — 米国

- CA1535 - 動向レビュー: 米国におけるデジタルリファレンスサービスの動向 (杉江典子)
CA1573 - 図書館長のリーダーシップのあり方を巡る世代間議論 (安井一徳)
CA1583 - 図書館員の大量退職に潜む構造的変化—米国における図書館員不足の状況 (早瀬均)
CA1634 - 「システムズライブラリアン」の位置づけをめぐる (澤田大祐)
CA1646 - 動向レビュー: 米国における図書館アドヴォカシーの展開 (福田都代)

図書館学

- CA1479 - 動向レビュー: 「問題利用者」論の動向 (樋山千冬)
CA1491 - 英国 CILIP の活動— LA と IIS の統合— (須賀千絵)
CA1506 - 研究文献レビュー: 電子資料と目録規則, メタデータ, リンキング・テクノロジー (北克一)
CA1554 - 動向レビュー: 「情報哲学 (the Philosophy of Information)」の誕生: 図書館情報学理論研究における新たな動向 (松林正己)
CA1687 - 研究文献レビュー: 日本における図書館情報学分野の計量的研究の動向—計量書誌学を中心に— (芳鐘冬樹)

図書館学教育

- CA1470 - 米国およびカナダにおける図書館情報学教育の変化—カリパー (KALIPER) プロジェクト概要 (小島和規)
CA1487 - 米国における学校図書館職員養成の動向 (中村百合子)
CA1505 - 動向レビュー: 図書館員教育の国際動向 (中村香織, 三浦太郎, 山形八千代, 石井奈穂子, 刈田朋子)
CA1654 - 情報倫理と図書館 (後藤敏行)
CA1663 - 開発途上国における図書館情報学教育 (三輪真木子)
CA1688 - 2009 年アジア太平洋図書館・情報教育国際会議 (A-LIEP 2009) 開催報告 (根本彰)

図書館活動

- CA1484 - ドイツのドキュメントサブライサー subito の現在 (山岡規雄)
CA1488 - 動向レビュー: デジタルリファレンスサービスの特性と展開 (齋藤泰則)
CA1497 - 動向レビュー: 電子図書館パフォーマンス指標に関するテクニカルレポート ISO/TR20983 の動向 (宇

- CA1499 - 陀則彦) 動向レビュー：シンガポールの図書館 IT 戦略 (呑海沙織)
- CA1500 - 英国「国民のネットワーク」の成果と今後 (橋詰秋子)
- CA1523 - 英国公共図書館のビジネス支援ポータル (桂まに子)
- CA1526 - 動向レビュー：LibQUAL + TM の展開と図書館サービスの品質評価 (佐藤義則)
- CA1533 - 緊急時に求められる図書館サービスについて (清水扶美子)
- CA1539 - デンマークの公共図書館における新たな有料サービス (岡田悟)
- CA1542 - 動向レビュー：学術的ポータルをめぐる動向 (米澤誠)
- CA1555 - 研究文献レビュー：レファレンスサービスの新しい潮流 (小田光宏)
- CA1564 - Google が図書館に与えるインパクト (兼宗進)
- CA1565 - RSS の発展と図書館サービスへの応用 (田邊稔)
- CA1568 - 動向レビュー：英国の公共図書館政策への批判と提言 (須賀千絵)
- CA1581 - 研究文献レビュー：図書館の経営評価に関する日本国内の研究動向 (倉橋英逸)
- CA1584 - ウェブによる図書館の情報発信：コンテンツ・マネジメント・システムの活用 (上田貴雪)
- CA1585 - 北欧の移民・難民への図書館サービススウェーデンとデンマークの事例から (堤恵)
- CA1588 - 動向レビュー：e-ラーニング時代の図書館サービス (三輪真木子)
- CA1595 - 米国の図書館における録音図書サービスーデジタル技術を活用した録音図書ー (井関哲司)
- CA1603 - インフォメーション・ commons からラーニング・ commons へ：大学図書館におけるネット世代の学習支援 (米澤誠)
- CA1609 - IFLA ソウル大会参加報告ーレファレンス・サービスをめぐってー (北川知子)
- CA1616 - ナレッジ・ベース社会に向けたタイの図書館の立場 (Surat Lertlum, Sarawat Ninsawat)
- CA1619 - 米国の公共図書館における成人リテラシー支援プログラムの現状と課題 (瀬戸口誠)
- CA1623 - ファインダビリティ向上を実現するフォークソノミー (篠原稔和)
- CA1624 - 次世代の図書館サービス？ー Library 2.0 とは何か (村上浩介)
- CA1633 - 動向レビュー：公共図書館に対する市民の意識調査：英国、米国における 2 つの調査の視点と方法 (佐藤義則)
- CA1640 - 中国国家デジタル図書館の概況 (申曉娟)
- CA1641 - 全世界のデジタル図書館の統合ポータルを目指してー韓国国立デジタル図書館の概要ー (武田和也)
- CA1649 - 研究文献レビュー：公共図書館政策の研究動向 (松本直樹)
- CA1655 - 小特集 北欧のコミュニティと公共図書館：デンマーク (吉田右子)
- CA1656 - 小特集 北欧のコミュニティと公共図書館：ノルウェー (マグヌスセン矢部直美)
- CA1657 - 小特集 北欧のコミュニティと公共図書館：スウェーデン (小林ソーデルマン淳子)
- CA1661 - 公共図書館の多文化サービスを進めるためにー情報ニーズ調査の必要性ー (平田泰子)
- CA1679 - 動向レビュー：「Bibliothek 2012」ードイツの図書館振興の現在ー (伊藤白)
- CA1689 - 経済低迷期と向かい合う米国公共図書館 (依田紀久)

図書館活動ー書目ー解題

- CA1668 - 研究文献レビュー：学習・教育基盤としての図書館 (米澤誠)

図書館間相互貸借

- CA1462 - 最近の情報環境と NCC の動向について (野口幸生)
- CA1545 - 動向レビュー：小特集：デジタル時代のドキュメント・デリバリー・サービス (井上佐知子, 山岡規雄, 上田貴雪, 筑木一郎)
- CA1575 - オーストラリア国立図書館における資源共有へ向けての新たな取り組み (大島薫)

図書館協会

- CA1599 - 研究文献レビュー：大学図書館員の継続教育 (鈴木正紀)
- CA1476 - CDRS から発展型デジタルレファレンスサービスへー QuestionPoint の開始ー (浅見文絵)
- CA1488 - 動向レビュー：デジタルレファレンスサービスの特性と展開 (齋藤泰則)
- CA1575 - オーストラリア国立図書館における資源共有へ向けての新たな取り組み (大島薫)
- CA1644 - 欧米における図書館、文書館、博物館の連携ー

Cultural Heritage Sector としての図書館ー (菅野育子)

- CA1689 - 経済低迷期と向かい合う米国公共図書館 (依田紀久)

図書館行政

- CA1478 - 動向レビュー：デジタル・ミレニアム著作権法施行から 2 年 (米国) (山本順一)
- CA1499 - 動向レビュー：シンガポールの図書館 IT 戦略 (呑海沙織)
- CA1500 - 英国「国民のネットワーク」の成果と今後 (橋詰秋子)
- CA1504 - 動向レビュー：韓国における子ども図書館をめぐる動向 (曹在順)
- CA1547 - 米国愛国者法の制定と図書館の対処 (中川かおり)
- CA1568 - 動向レビュー：英国の公共図書館政策への批判と提言 (須賀千絵)
- CA1578 - 動向レビュー：韓国における図書館情報政策の動向 (曹在順)
- CA1592 - アジア・オセアニア地域と図書館ー IFLA アジア・オセアニアセクション委員会活動よりー (北村由美)
- CA1602 - 利用者のセグメンテーション：シンガポールにおける利用者志向の図書館戦略 (呑海沙織)
- CA1635 - 韓国の図書館関連法規の最新動向 (金容媛)
- CA1670 - 中国における図書館法制定に向けての取り組みと研究動向 (金曉明)
- CA1679 - 動向レビュー：「Bibliothek 2012」ードイツの図書館振興の現在ー (伊藤白)

図書館行政ー書目ー解題

- CA1649 - 研究文献レビュー：公共図書館政策の研究動向 (松本直樹)

図書館協力

- CA1553 - 動向レビュー：図書館コンソーシアムのライフサイクル (尾城孝一)

図書館協力ーヨーロッパ

- CA1556 - 欧州図書館 (The European Library) の最新情報 (久古聡美)

図書館協力ー英国

- CA1538 - Ask a Librarian (UK) の概要と協同事業としての課題 (依田紀久)

図書館協力ー中国

- CA1507 - ネット上での合同レファレンスシステムと文献資源共有との関係ー上海図書館と知識ナビゲーション合同ネット (金紅亜, 張帆)

図書館経営

- CA1475 - 動向レビュー：英国の公共図書館評価の動向ーパフォーマンス指標と図書館基準を中心にー (須賀千絵)
- CA1497 - 動向レビュー：電子図書館パフォーマンス指標に関するテクニカルレポート ISO/TR20983 の動向 (宇陀則彦)
- CA1515 - 電子ジャーナル利用の傾向と対策 (阿藺品治夫)
- CA1519 - 動向レビュー：中国図書館界におけるナレッジ・マネジメントの動向 (李常慶)
- CA1550 - 経営戦略としての図書館ブランディングー英国図書館のり・ブランディング事例からー (南山宏之)
- CA1553 - 動向レビュー：図書館コンソーシアムのライフサイクル (尾城孝一)
- CA1568 - 動向レビュー：英国の公共図書館政策への批判と提言 (須賀千絵)
- CA1573 - 図書館長のリーダーシップのあり方を巡る世代間議論 (安井一徳)
- CA1625 - 動向レビュー：根拠に基づいた図書館業務の設計ー実践家の成果の共有を目指す EBLIP の動向ー (依田紀久)
- CA1643 - 打破！変わらない組織と動かないシステムーパイレーツ・オブ・ライブラリアンを目指してー (田邊稔)
- CA1646 - 動向レビュー：米国における図書館アドヴォカシーの展開 (福田都代)
- CA1653 - ISO/TR28118「国立図書館のためのパフォーマンス指標」制定の動き (徳原直子)
- CA1655 - 小特集 北欧のコミュニティと公共図書館：デンマーク (吉田右子)
- CA1656 - 小特集 北欧のコミュニティと公共図書館：ノルウェー (マグヌスセン矢部直美)
- CA1657 - 小特集 北欧のコミュニティと公共図書館：スウェーデン (小林ソーデルマン淳子)
- CA1679 - 動向レビュー：「Bibliothek 2012」ードイツの図書

- 館振興の現在～（伊藤白）
CA1689 - 経済低迷期と向かい合う米国公共図書館（依田紀久）

図書館経営 — 書目 — 解説

- CA1581 - 研究文献レビュー：図書館の経営評価に関する日本国内の研究動向（倉橋英逸）
CA1589 - 研究文献レビュー：図書館の様々な運営形態（柴田正美）
CA1659 - 研究文献レビュー：今日の医学図書館（城山泰彦）
CA1660 - 研究文献レビュー：看護図書館（今田敬子）
CA1668 - 研究文献レビュー：学習・教育基盤としての図書館（米澤誠）

図書館建築

- CA1580 - 動向レビュー：「場所としての図書館」をめぐる議論（根本彰）
CA1591 - 図書館のガラス建築化とその思想（笹本直裕）

図書館情報学国家委員会（NCLIS）

- CA1474 - 動向レビュー：米国連邦政府の電子情報政策－情報アクセスをめぐる議論と"September 11th"の影響－（古賀崇）
CA1587 - 動向レビュー：米国国立医学図書館と図書館情報学国家委員会による健康情報サービス支援事業（酒井由紀子）

図書館調査

- CA1461 - ドイツにおける児童・青少年図書館とマルチメディア（山口和人）
CA1493 - カナダの政府情報管理政策と現状（野澤明日香）
CA1514 - 研究文献レビュー：利用者教育－「情報リテラシー」との関わりを中心に－（野末俊比古）
CA1526 - 動向レビュー：LibQUAL + TMの展開と図書館サービスの品質評価（佐藤義則）
CA1530 - 電子ジャーナルのコンソーシアム利用が大学図書館の文献デリバリーへ及ぼす影響（加藤信哉）
CA1549 - カナダの刑務所内図書館（山口昭夫）
CA1555 - 研究文献レビュー：レファレンスサービスの新しい潮流（小田光宏）
CA1557 - IFLA の CIP プログラム調査（柴田洋子）
CA1627 - 動向レビュー：図書館のもたらす経済効果（池内淳）
CA1633 - 動向レビュー：公共図書館に対する市民の意識調査：英国、米国における2つの調査の視点と方法（佐藤義則）
CA1681 - 電子情報長期保存のための評価ツール DRAMBORA－NDLにおける試験評価の試みから（奥田倫子、伊沢恵子）

図書館統計

- CA1460 - 図書館統計の国際標準化における動向（徳原直子）
CA1497 - 動向レビュー：電子図書館パフォーマンス指標に関するテクニカルレポート ISO/TR20983 の動向（宇陀則彦）
CA1627 - 動向レビュー：図書館のもたらす経済効果（池内淳）

図書館と社会

- CA1576 - ショッピングセンターと公共図書館（鈴木均）
CA1616 - ナレッジ・ベース社会に向けたタイの図書館の立場（Surat Lertlum, Sarawat Ninsawat）
CA1633 - 動向レビュー：公共図書館に対する市民の意識調査：英国、米国における2つの調査の視点と方法（佐藤義則）
CA1635 - 韓国の図書館関連法規の最新動向（金容媛）
CA1646 - 動向レビュー：米国における図書館アドヴォカシーの展開（福田都代）
CA1655 - 小特集 北欧のコミュニティと公共図書館：デンマーク（吉田右子）
CA1656 - 小特集 北欧のコミュニティと公共図書館：ノルウェー（マグヌスセン矢部直美）
CA1657 - 小特集 北欧のコミュニティと公共図書館：スウェーデン（小林ソーデルマン淳子）
CA1679 - 動向レビュー：「Bibliothek 2012」～ドイツの図書館振興の現在～（伊藤白）
CA1689 - 経済低迷期と向かい合う米国公共図書館（依田紀久）

図書館と障害者

- CA1471 - 情報バリアフリーに向けた国際的な動き（大原裕子）
CA1486 - 米国におけるデジタル録音図書をめぐる動き-NLSを中心に－（深谷順子）
CA1528 - 研究文献レビュー：図書館と著作権問題（村上泰子）
CA1611 - 障害者サービスの潮流－DAISY & 統合デジタル図書館ワークショップ報告－（原田圭子）

図書館の自由

- CA1473 - 動向レビュー：「子どもをインターネットから保護する法律」と米国図書館協会（川崎良孝）
CA1546 - 研究文献レビュー：学校図書館に関する日本国内の研究動向（中村百合子）
CA1572 - 「子どもをインターネットから保護する法律」合憲判決と図書館への影響（高嶺裕樹）

図書館法 — 韓国

- CA1578 - 動向レビュー：韓国における図書館情報政策の動向（曹在順）
CA1635 - 韓国の図書館関連法規の最新動向（金容媛）

図書館法 — 中国

- CA1670 - 中国における図書館法制定に向けての取り組みと研究動向（金曉明）

図書館法 — デンマーク

- CA1539 - デンマークの公共図書館における新たな有料サービス（岡田悟）

図書館法 — フィリピン

- CA1540 - フィリピン・ライブラリアンシップ法－専門職の法による確立－（北村由美）

図書館利用教育

- CA1514 - 研究文献レビュー：利用者教育－「情報リテラシー」との関わりを中心に－（野末俊比古）
CA1517 - シンガポールのDIY図書館（井上健太）
CA1661 - 公共図書館の多文化サービスを進めるために－情報ニーズ調査の必要性－（平田泰子）

図書館利用教育 — 書目 — 解説

- CA1514 - 研究文献レビュー：利用者教育－「情報リテラシー」との関わりを中心に－（野末俊比古）

《ナ行》

ナレッジマネジメント

- CA1518 - 動向レビュー：ライブラリアンとナレッジ・マネジメント（梅本勝博）
CA1519 - 動向レビュー：中国図書館界におけるナレッジ・マネジメントの動向（李常慶）

難民

- CA1585 - 北欧の移民・難民への図書館サービス－スウェーデンとデンマークの事例から（堤恵）

日本 — 外国関係 — 北米

- CA1462 - 最近の情報環境とNCCの動向について（野口幸生）

日本研究

- CA1462 - 最近の情報環境とNCCの動向について（野口幸生）
CA1463 - EAJRS 回顧と展望－今後への指標として－（松江万里子）

日本図書館協会

- CA1649 - 研究文献レビュー：公共図書館政策の研究動向（松本直樹）

認知科学

- CA1651 - アフォーダンス理論に基づく情報行動研究の可能性（坪井伸樹）

納本制度

- CA1490 - 動向レビュー：欧州のウェブ・アーカイビング（村上泰子、齋藤健太郎、松林正己、清水裕子、井田敦彦）

納本制度 — ドイツ

- CA1613 - ドイツにおけるオンライン出版物の法定納本制度（渡邊齊志）

納本制度 — ニュージーランド

- CA1612 - ニュージーランドにおける法定納本制度改正の動き（熊倉優子）

納本制度 — フランス

- CA1614 - フランス法定納本制度改正とウェブアーカイブへの対応（鈴木尊紘）

《ハ行》

ハードディスク

- CA1683 - 光／磁気ディスク、フラッシュメモリの劣化と寿命（大島茂樹）

博物館

- CA1644 - 欧米における図書館、文書館、博物館の連携 - Cultural Heritage Sector としての図書館 - (菅野育子)

発展途上国 - 教育

- CA1663 - 開発途上国における図書館情報学教育 (三輪真木子)

発展途上国開発 - 情報サービス

- CA1566 - 発展途上国における学術情報流通とオープンアクセス (竹内比呂也)

表現の自由

- CA1547 - 米国愛国者法の制定と図書館の対処 (中川かおり)
CA1572 - 「子どもをインターネットから保護する法律」合憲判決と図書館への影響 (高嶺裕樹)

品質管理

- CA1581 - 研究文献レビュー: 図書館の経営評価に関する日本国内の研究動向 (倉橋英逸)

複写サービス (図書館)

- CA1484 - ドイツのドキュメントサプライサービス subito の現在 (山岡規雄)
CA1528 - 研究文献レビュー: 図書館と著作権問題 (村上泰子)
CA1530 - 電子ジャーナルのコンソーシアム利用が大学図書館の文献デリバリーへ及ぼす影響 (加藤信哉)
CA1545 - 動向レビュー: 小特集: デジタル時代のドキュメント・デリバリー・サービス (井上佐知子, 山岡規雄, 上田貴雪, 筑木一郎)

プライバシー

- CA1574 - 図書館への RFID 技術の導入をめぐる (小笠原美喜)

フラッシュメモリ

- CA1683 - 光/磁気ディスク、フラッシュメモリの劣化と寿命 (大島茂樹)

フランス国立視聴覚研究所

- CA1614 - フランス法定納本制度改正とウェブアーカイブへの対応 (鈴木尊紘)

ブランディング

- CA1550 - 経営戦略としての図書館ブランディング - 英国図書館のリ・ブランディング事例から - (南山宏之)

プロトコル

- CA1482 - 動向レビュー: OpenURL と S・F・X (増田豊)
CA1513 - 動向レビュー: OAI-PMH をめぐる動向 (尾城孝一)
CA1521 - パーチャル国際典拠ファイル - その試みと可能性 - (鈴木智之)
CA1690 - 動向レビュー: デジタルリポジトリにおけるメタデータ交換の動向 (栗山正光)

文化財保護

- CA1522 - イラク図書館・文書館の戦禍と復興支援 (安田浩之)
CA1570 - インド洋大津波による図書館、文書館被害と今後の課題 (坂本勇)
CA1630 - 災害時における資料保全活動の一元化 (尾立和則)

文書管理

- CA1464 - 本格的電子アーカイブを目指して - アジア歴史資料センターの紹介 - (牟田昌平)

文書館

- CA1644 - 欧米における図書館、文書館、博物館の連携 - Cultural Heritage Sector としての図書館 - (菅野育子)

米国議会図書館 (LC)

- CA1476 - CDRS から発展型デジタルレファレンスサービスへ - QuestionPoint の開始 - (浅見文絵)
CA1502 - 国家規模でデジタル情報を保存する - LC 主導のNDIIPP が本格始動 - (塩崎亮)
CA1552 - 動向レビュー: MARC とメタデータのクロスウォーク (佐藤康之)
CA1617 - 研究図書館目録の危機と将来像 - 3 機関の報告書から - (渡邊隆弘)
CA1650 - 書誌コントロールの将来に向けた LC の取り組み (倉光典子)

米国国立衛生研究所 (NIH)

- CA1600 - 政策としてのオープンアクセス: NIH パブリックアクセス方針の現状と課題 (三根慎二)

米国政府印刷局 (GPO)

- CA1548 - 最後の拠り所としての政府情報コレクション (筑木一郎)
CA1569 - 動向レビュー: 米国政府刊行物アーカイビングの進展 (村上浩介)

米国図書館協会 (ALA)

- CA1473 - 動向レビュー: 「子どもをインターネットから保護する法律」と米国図書館協会 (川崎良孝)
CA1487 - 米国における学校図書館職員養成の動向 (中村百合子)
CA1547 - 米国愛国者法の制定と図書館の対処 (中川かおり)
CA1618 - 米国の図書館界と SNS 検閲 (井上靖代)
CA1646 - 動向レビュー: 米国における図書館アドヴォカシーの展開 (福田都代)

編集 - データ処理

- CA1676 - ウィキペディアにおける情報の質 (IQ) 向上の仕組み (石澤文)

北米研究図書館協会 (ARL)

- CA1469 - 拡大する SPARC - SPARC Europe や SPARC Japan への流れ - (井上雅子)
CA1512 - 動向レビュー: 電子ジャーナルの出版・契約・利用統計 (加藤信哉)
CA1535 - 動向レビュー: 米国におけるデジタルレファレンスサービスの動向 (杉江典子)
CA1586 - 動向レビュー: 電子ジャーナルのビッグ・ディールが大学図書館へ及ぼす経済的影響について (加藤信哉)
CA1617 - 研究図書館目録の危機と将来像 - 3 機関の報告書から - (渡邊隆弘)

ボランティア活動

- CA1630 - 災害時における資料保全活動の一元化 (尾立和則)

《マ行》

- マーケティング
CA1602 - 利用者のセグメンテーション: シンガポールにおける利用者志向の図書館戦略 (呑海沙織)
CA1609 - IFLA ソウル大会参加報告 - レファレンス・サービスをめぐって - (北川知子)

マイクロ資料 (図書館)

- CA1466 - 動向レビュー: 過去を未来へ - ニコルソン・ベイカーの願い - (業師院はるみ)
CA1520 - 動向レビュー: デジタル情報の長期的な保存にともなう経済的課題 (今野篤)
CA1577 - 動向レビュー: 新聞資料のデジタル化をめぐる動き (大山聡)

漫画 -- 保存・修復 -- 日本

- CA1637 - 日本における漫画の保存と利用 (内記稔夫, 秋田孝宏)

漫画同人誌 - 収集

- CA1672 - マンガ同人誌の保存と利活用に向けて - コミックマーケットの事例から - (里見直紀, 安田かほる, 筆谷芳行, 市川孝一)

漫画同人誌 - 保存・修復 - 日本

- CA1672 - マンガ同人誌の保存と利活用に向けて - コミックマーケットの事例から - (里見直紀, 安田かほる, 筆谷芳行, 市川孝一)

民主主義

- CA1541 - 動向レビュー: 情報コモンズ: 情報基盤の私事化と民主主義の健全性 (坂田仰)

民族学 - データ処理

- CA1647 - 動向レビュー: 時空間情報をキーとする文化資源アーカイブズの構想 (久保正敏)

メタデータ

- CA1482 - 動向レビュー: OpenURL と S・F・X (増田豊)
CA1489 - 動向レビュー: デジタル情報保存のためのメタデータに関する動向 (栗山正光)
CA1506 - 研究文献レビュー: 電子資料と目録規則, メタデータ, リンキング・テクノロジー (北克一)
CA1513 - 動向レビュー: OAI-PMH をめぐる動向 (尾城孝一)
CA1527 - 動向レビュー: DSpace をめぐる動向 (莊司雅之)
CA1534 - 動向レビュー: セマンティックウェブと図書館 (渡邊隆弘)

- CA1551 - 「2004 年ダブリンコア・メタデータ応用国際会議」(DC-2004) 開催される (坂本博)
- CA1552 - 動向レビュー: MARC とメタデータのクロスワーク (佐藤康之)
- CA1561 - 動向レビュー: デジタル資料保存リポジトリの動向 (栗山正光)
- CA1565 - RSS の発展と図書館サービスへの応用 (田邊稔)
- CA1596 - メタサーチ技術と国立国会図書館デジタルアーカイブポータル (吉田暁)
- CA1598 - 動向レビュー: ウェブ・オントロジーの可能性と図書館 (神崎正英)
- CA1623 - ファインダビリティ向上を実現するフォークソノミー (篠原稔和)
- CA1650 - 書誌コントロールの将来に向けた LC の取り組み (倉光典子)
- CA1665 - OCLC の FRBR 化の取組み: xISBN サービスを中心に (橋詰秋子)
- CA1690 - 動向レビュー: デジタルリポジトリにおけるメタデータ交換の動向 (栗山正光)

目録カード

- CA1466 - 動向レビュー: 過去を未来へーニコルソン・ペイカーの願いー (薬師院はるみ)

目録法

- CA1480 - 動向レビュー: AACR2 改訂と FRBR をめぐってー目録法の最新動向ー (和中幹雄)
- CA1485 - ISBD の新たな展開ー ISBD (M) と (CR)ー (那須雅熙)
- CA1506 - 研究文献レビュー: 電子資料と目録規則, メタデータ, リンキング・テクノロジー (北克一)
- CA1558 - 北米の映像資料目録の動向: 動画資料を中心に (児玉優子)
- CA1571 - 新しい国際目録原則に向けて (稲濱みのる)
- CA1650 - 書誌コントロールの将来に向けた LC の取り組み (倉光典子)
- CA1665 - OCLC の FRBR 化の取組み: xISBN サービスを中心に (橋詰秋子)
- CA1686 - 動向レビュー: RDA 全体草案とその前後 (古川肇)

《ヤ行》

ヤングアダルトサービス

- CA1638 - 研究文献レビュー: 子どもへの読書支援と図書館サービス (岩崎れい)

ユニバーサルデザイン

- CA1471 - 情報バリアフリーに向けた国際的な動き (大原裕子)

《ラ行》

ライセンス契約

- CA1516 - インドにおけるナショナルサイトライセンスの実践ー国家的プロジェクト INDEST コンソーシアムー (松井祐次郎)
- CA1524 - 電子資料の共同購入ーニュージーランドのナショナルサイトライセンス EPICー (柴田容子)
- CA1553 - 動向レビュー: 図書館コンソーシアムのライフサイクル (尾城孝一)
- CA1586 - 動向レビュー: 電子ジャーナルのビッグ・ディールが大学図書館へ及ぼす経済的影響について (加藤信哉)

リーダーシップ

- CA1573 - 図書館長のリーダーシップのあり方を巡る世代間議論 (安井一徳)

レファレンスワーク

- CA1476 - CDRS から発展型デジタルレファレンスサービスへー QuestionPoint の開始ー (浅見文絵)
- CA1488 - 動向レビュー: デジタルレファレンスサービスの特性と展開 (齋藤泰則)
- CA1636 - 中国におけるバーチャルレファレンスサービス (清水扶美子)
- CA1651 - アフォーダンス理論に基づく情報行動研究の可能性 (坪井伸樹)
- CA1652 - チャットレファレンスサービスに必要な専門的能力 (小田光宏)

レファレンスワークー情報サービス

- CA1535 - 動向レビュー: 米国におけるデジタルレファレンスサービスの動向 (杉江典子)
- CA1538 - Ask a Librarian (UK) の概要と協同事業としての課題 (依田紀久)
- CA1609 - IFLA ソウル大会参加報告ーレファレンス・サービ

スをめぐってー (北川知子)

レファレンスワークー情報システム

- CA1507 - ネット上での合同レファレンスシステムと文献資源共有との関係ー上海図書館と知識ナビゲーション合同ネット (金紅亜, 張軼)
- CA1517 - シンガポールの DIY 図書館 (井上健太)
- CA1535 - 動向レビュー: 米国におけるデジタルレファレンスサービスの動向 (杉江典子)

レファレンスワークー書目ー解題

- CA1555 - 研究文献レビュー: レファレンスサービスの新しい潮流 (小田光宏)

録音資料

- CA1486 - 米国におけるデジタル録音図書をめぐる動き -NLS を中心にー (深谷順子)
- CA1595 - 米国の図書館における録音図書サービスーデジタル技術を活用した録音図書ー (井関哲司)
- CA1611 - 障害者サービスの潮流ー DAISY & 統合デジタル図書館ワークショップ報告ー (原田圭子)

《アルファベット》

ALAー米国図書館協会

ARLー北米研究図書館協会

BLー英国図書館

CD

- CA1683 - 光/磁気ディスク、フラッシュメモリの劣化と寿命 (大島茂樹)

CILIPー英国図書館情報専門家協会

CIP

- CA1557 - IFLA の CIP プログラム調査 (柴田洋子)

DVD

- CA1683 - 光/磁気ディスク、フラッシュメモリの劣化と寿命 (大島茂樹)

EUー欧州連合

e ラーニング

- CA1495 - スロバキアの遠隔研修プロジェクト PROLIB (岡本常将)
- CA1588 - 動向レビュー: e- ラーニング時代の図書館サービス (三輪眞木子)

GISー地理情報システム

Googleーグーグル

GPOー米国政府印刷局

IC タグ

- CA1496 - 出版情報システムの基盤整備ー日本出版インフラセンターの紹介ー (本間広政)
- CA1574 - 図書館への RFID 技術の導入をめぐる (小笠原美喜)

IFLAー国際図書館連盟

ISBNー国際標準図書番号

ISOー国際標準化機構

LCー米国議会図書館

MARC

- CA1552 - 動向レビュー: MARC とメタデータのクロスワーク (佐藤康之)

NCLISー図書館情報学国家委員会

NIHー米国立衛生研究所

NISOー米国情報標準化機構

OCLC

- CA1476 - CDRS から発展型デジタルレファレンスサービスへー QuestionPoint の開始ー (浅見文絵)

- CA1477 - OCLC Connexion - 目録作成サービスの統合 - (中井恵久)
 CA1505 - 動向レビュー: 図書館員教育の国際動向 (中村香織, 三浦太郎, 山形八千代, 石井奈穂子, 刈田朋子)
 CA1665 - OCLC の FRBR 化の取組み: xISBN サービスを中心に (橋詰秋子)

OPAC → オンライン目録

PFI

- CA1589 - 研究文献レビュー: 図書館の様々な運営形態 (柴田正美)

RLG → 研究図書館グループ

SNS → ソーシャルネットワーキングサービス

UNESCO → 国際連合教育科学文化機関

Wikipedia

- CA1510 - オープンコンテンツの百科事典ウィキペディア (福田亮)
 CA1676 - ウィキペディアにおける情報の質 (IQ) 向上の仕組み (石澤文)

WIPO → 世界知的所有権機関

科会を中心に - (石塚陽子)

- CA1611 - 障害者サービスの潮流 - DAISY & 統合デジタル図書館ワークショップ報告 - (原田圭子)

インターネットに対応する納本制度改正の動き (No.290)

- CA1612 - ニュージーランドにおける法定納本制度改正の動き (熊倉優子)
 CA1613 - ドイツにおけるオンライン出版物の法定納本制度 (渡邊齊志)
 CA1614 - フランス法定納本制度改正とウェブアーカイブへの対応 (鈴木尊紘)

北欧のコミュニティと公共図書館 (No.295)

- CA1655 - 小特集 北欧のコミュニティと公共図書館: デンマーク (吉田右子)
 CA1656 - 小特集 北欧のコミュニティと公共図書館: ノルウェー (マグヌス・セン・矢部直美)
 CA1657 - 小特集 北欧のコミュニティと公共図書館: スウェーデン (小林ソーデルマン淳子)

カレントアウェアネス創刊300号・30周年に寄せて (No.300)

- No.300 - 『カレントアウェアネス』の編集に係わって (田村俊作)
 No.300 - 『カレントアウェアネス』 - 「変わったこと」と「変わらないこと」 (野末俊比古)
 No.300 - 『カレントアウェアネス』300号への道程 (北克一)

その他の記事

- No.272 - 新装版『カレントアウェアネス』刊行にあたって (児玉史子)
 CA1590 - 刊行物レビュー: メールマガジン『カレントアウェアネス・E』で見る 2005 年 (関西館事業部図書館協力課調査情報係)
 No.300 - 「図書館・図書館情報学の情報誌」としての期待 (長尾真)
 No.300 - 『カレントアウェアネス』30 年の歩み (関西館図書館協力課)
 No.300 - 『カレントアウェアネス』の編集に係わって (田村俊作)
 No.300 - 『カレントアウェアネス』 - 「変わったこと」と「変わらないこと」 (野末俊比古)
 No.300 - 『カレントアウェアネス』300 号への道程 (北克一)

小特集一覧

日本情報の利用と提供 - 関係機関の紹介 - (No.272)

- CA1462 - 最近の情報環境と NCC の動向について (野口幸生)
 CA1463 - EAJRS 回顧と展望 - 今後への指標として - (松江万里子)
 CA1464 - 本格的電子アーカイブを目指して - アジア歴史資料センターの紹介 - (牟田昌平)

電子情報提供の基盤 (No.274)

- CA1480 - 動向レビュー: AACR2 改訂と FRBR をめぐって - 目録法の最新動向 - (和中幹雄)
 CA1481 - 動向レビュー: CrossRef をめぐる動向 (尾城孝一)
 CA1482 - 動向レビュー: OpenURL と S・F・X (増田豊)

オープンアクセスをめぐる動向 (英米の報告書を中心に) (No.282)

- CA1543 - 動向レビュー: 科学研究出版の費用分析とビジネスモデル (芳鐘冬樹)
 CA1544 - 動向レビュー: 英米両国議会における学術情報のオープンアクセス化動向 (筑木一郎)

デジタル時代のドキュメント・デリバリー・サービス (No.282)

- CA1545 - 動向レビュー: 小特集: デジタル時代のドキュメント・デリバリー・サービス (井上佐知子, 山岡規雄, 上田貴雪, 筑木一郎)

Google の新サービスが与える影響 (No.289)

- CA1606 - GoogleGoogle Scholar, Windows Live Academic Search と図書館の役割 (片岡真)
 CA1607 - 進化する地図の世界 (津田深雪)
 CA1608 - 情報検索サイトと「検索」 - "思想の自由市場" の復活に向けて - (坂田仰)

IFLA ソウル大会に参加して (No.290)

- CA1609 - IFLA ソウル大会参加報告 - レファレンス・サービスをめぐって - (北川知子)
 CA1610 - IFLA ソウル大会報告 - 視聴覚・マルチメディア分

研究文献レビュー一覧

- CA1506 - 研究文献レビュー: 電子資料と目録規則, メタデータ, リンキング・テクノロジー (北克一)
 CA1514 - 研究文献レビュー: 利用者教育 - 「情報リテラシー」との関わりを中心に - (野末俊比古)
 CA1528 - 研究文献レビュー: 図書館と著作権問題 (村上泰子)
 CA1546 - 研究文献レビュー: 学校図書館に関する日本国内の研究動向 (中村百合子)
 CA1555 - 研究文献レビュー: レファレンスサービスの新しい潮流 (小田光宏)
 CA1563 - 研究文献レビュー: 日本における情報検索技術に関する研究動向 (岸田和明)
 CA1581 - 研究文献レビュー: 図書館の経営評価に関する日本国内の研究動向 (倉橋英逸)
 CA1589 - 研究文献レビュー: 図書館の様々な運営形態 (柴田正美)
 CA1599 - 研究文献レビュー: 大学図書館員の継続教育 (鈴木正紀)
 CA1621 - 研究文献レビュー: 公共図書館職員の養成教育と継続教育 (大谷康晴)
 CA1638 - 研究文献レビュー: 子どもへの読書支援と図書館サービス (岩崎れい)
 CA1639 - 研究文献レビュー: 学術情報流通と大学図書館の学術情報サービス (筑木一郎)
 CA1649 - 研究文献レビュー: 公共図書館政策の研究動向 (松本直樹)
 CA1659 - 研究文献レビュー: 今日の医学図書館 (城山泰彦)
 CA1660 - 研究文献レビュー: 看護図書館 (今田敬子)
 CA1668 - 研究文献レビュー: 学習・教育基盤としての図書館 (米澤誠)
 CA1673 - 研究文献レビュー: 図書館史 (三浦太郎)
 CA1680 - 研究文献レビュー: 図書館における紙資料の実物保存 (吉川也志保)
 CA1687 - 研究文献レビュー: 日本における図書館情報学分野の計量的研究の動向 - 計量書誌学を中心に - (芳鐘冬樹)

視覚障害その他の理由でこの本を活字のままでは読むことのできない人の利用に供するために、この本をもとに録音図書 (音声訳)、拡大写本又は電子図書 (パソコンなどを利用して読む図書) の作成を希望される方は、国立国会図書館まで御連絡ください。

連絡先 国立国会図書館 総務部総務課

住 所 〒100-8924

東京都千代田区永田町1-10-1

電話番号 03-3506-3306